大学機関別選択評価

自　己　評　価　書

平成２６年６月

三重大学

目　　次

Ⅰ　大学の現況及び特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　選択評価事項Ｂ　地域貢献活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅳ　選択評価事項Ｃ　教育の国際化の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

Ⅰ　大学の現況及び特徴

１　現況

（１）大学名　　三重大学

（２）所在地　　三重県津市

（３）学部等の構成

学部：人文学部，教育学部，医学部，工学部，生物資源学部

研究科：人文社会科学研究科（修士課程），教育学研究科（修士課程），医学系研究科（修士課程・博士課程），工学研究科（博士前期課程・博士後期課程），生物資源学研究科（博士前期課程・博士後期課程），地域イノベーション学研究科（博士前期課程・博士後期課程）

附置研究所：該当なし

関連施設:教養教育機構,附属図書館,保健管理センター,社会連携研究センター（社会連携研究室・知的財産統括室・新産業創成研究拠点・研究展開支援拠点・伊賀研究拠点），生命科学研究支援センター，国際交流センター，総合情報処理センター，高等教育創造開発センター，共通教育センター，学生総合支援センター，国際環境教育研究センター，附属教育実践総合センター，附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属特別支援学校，附属病院，附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（附帯施設農場・附帯施設演習林・附帯施設水産実験所），附属練習船勢水丸，地域イノベーション・コアラボ

（４）学生数及び教員数（平成26年5月1日現在）

学生数：学部　6,148人，大学院　1,150人

専任教員数：　790人

助手数：　　0人

２　特徴

本学は，昭和24年５月，三重師範学校，三重青年師範学校，三重農林専門学校を包括し，学芸学部，農学部の２学部を有する新制の国立大学として設置された。

その後，昭和41年４月に学芸学部を教育学部に改称し，昭和44年４月工学部設置，昭和47年５月医学部，水産学部の設置（三重県立大学から移管），昭和58年４月人文学部設置，昭和62年10月には農学部と水産学部を統合改組し生物資源学部を設置。平成９年10月に医学部看護学科を設置し，平成12年３月に医療技術短期大学部を廃止した。さらに，平成21年４月には地域イノベーション学研究科を新設し，現在までに各学部を基礎として設置した大学院研究科を含め，５学部６研究科及びその関連施設で構成される総合大学となっている。

本学は，基本理念を『教育・研究の実績と伝統を踏まえ，「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し，学術文化の受発信拠点となるべく，切磋琢磨する。』と定め，活発な教育研究活動を展開している。その主な特徴は次のとおりである。

（１）教育に関しては，「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」と，それらを総合した 「生きる力」の4つの力の獲得を基本的教育目標に据えている。また，教育目標を達成するための教育方法として，PBL教育(Problem/Project Based Learning)を採用するなど，学生の問題解決的な能力の形成，自主的な学習態度の育成に努めている。

（２）研究に関しては，研究能力が世界に通用すると評価される研究者が存在するが，地域に貢献するテーマに積極的に関わろうとする教員も多く，それらの研究成果は，教育現場，地域医療，自治体や企業との連携や各種技術のイノベーションにも活用されている。

（３）社会連携・地域貢献に関しては，「地域に根ざす」をモットーに，自治体や企業との連携に大きな成果を挙げており，地域社会とともに歩む姿勢を貫いている。

また，四日市公害の解決に本学が大きく寄与した経験を活かし，学生と教職員が一体となって ISO14001 の認証を取得して教育，研究，社会貢献に活用するなど，地域とともに積極的に環境活動を実施している。

（４）国際交流に関しては，平成６年度から実施している「３大学ジョイントセミナー」（江蘇大学（中国），チェンマイ大学（タイ））の充実をはじめ，アジアパシフィック地域を中心とした技術支援やシンポジウムなどの国際交流，留学生の受入，国際インターンシップ制度の整備，天津師範大学（中国）との日本語教育分野における，国立大学では先進的な学部レベルのダブルディグリープログラムの実施などの実績を有する。

Ⅱ　目的

１．大学の基本的な目標（ミッション）

本学は，学則第１条（目的）において，「本学は，広く教養を与えると共に，専門の学芸を教授研究し，科学及び技術の発達に努め，真理と正義を愛する人格を育成し，人類の福祉と文化の進展に貢献することを目的とする。」と定め，基本的な目標（ミッション）として「三重の力を世界へ：地域に根ざし，世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」を設定している。

２．基本理念及び目的

本学は，基本理念として「三重大学は，総合大学として，教育・研究の実績と伝統を踏まえ，「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し，学術文化の受発信拠点となるべく，切磋琢磨する。」を掲げ，以下の「教育」「研究」「社会貢献」「情報化」「国際化」「組織」の６項目からなる目的を設定している。

①教育の目的

・三重大学は「４つの力」，すなわち「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」と，それらを総合した「生きる力」を躍動させる場として，社会の新しい進歩を促すと同時に他者に対する寛容と奉仕の心を併せもった感性豊かな人材を育成する。

・三重大学は課題探求心，問題解決能力，研究能力を育てるとともに，学際的・独創的・総合的視野をもち，国際的にも活躍できる人材を育成する。

・三重大学は，多様な学生を受け入れるための教育制度を構築するとともに，学生の心身の健康を維持・増進させ，意欲的に修学できる学習環境を整備し，学生の個性を重んじた進路指導を実施することを目指す。

②研究の目的

・三重大学は，多様な独創的応用研究と基礎研究の充実を図り，さらに固有の領域を伝承・発展させるとともに，総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み，研究成果を積極的に社会に還元する。

③社会貢献の目的

・三重大学は，教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに，地域社会との双方向の連携を推進する。

④情報化の目的

・三重大学は，学内における情報化はもとより，学術研究・地域連携・社会活動等の情報を受発信し，グローバル社会における学術文化の起点となることを目指す。

⑤国際化の目的

・三重大学は，国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し，大学の国際化を目指す。

⑥組織の目的

・三重大学は，審議・執行・評価の独自性を確立し，学長のリーダーシップの下に，速やかな意志決定と行動を可能にする開かれた大学運営と体制の整備に努める。

３．中期目標

基本的な目標（ミッション）・基本理念及び目的を実現するために，中期目標においては，以下に掲げる目標が設定されている。

○教育に関する目標

幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し，地域のイノベーションを推進できる人財を育成する

ために，「４つの力」，すなわち「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」それらを総合した「生きる力」を養成する。

・「感じる力」：感性，共感，倫理観，モチベーション，主体的学習力，心身の健康に対する意識

・「考える力」：幅広い教養，専門知識・技術，論理的思考力，批判的思考力，課題探求力，問題解決力

・「コミュニケーション力」：情報受発信力，討論・対話力，指導力・協調性，社会人としての態度，実践外国語力

・「生きる力」：感じる力，考える力，コミュニケーション力を総合した力

○研究に関する目標

地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな研究成果を生み出す。さらに，その成果を教育に反映するとともに，広く社会に還元する。

○社会との連携や社会貢献に関する目標

地域に根ざした知の支援活動を促進する。

○国際交流に関する目標

・国際交流イベントなどによって国際感覚が自然に身につきやすい学内の国際化を進める。

・留学生，外国人研究者の受入れ体制及び学生，教職員の海外派遣制度を整備し，充実を図る。

・地域の国際化・国際交流の発展を支援する。

○学術情報基盤に関する目標

電子情報受発信の拠点機能を有する学術情報基盤と情報セキュリティ基盤を強化する。

○組織運営の改善に関する目標

・社会のニーズや環境変化に対応し組織整備や効果的な経費配分など柔軟かつ機動的な運営を行うため，トップマネジメントによる速やかな意志決定と管理運営体制を強化する。

・大学運営の専門職能集団及び教育研究活動等の機能を向上させるため，教職員の人事制度の見直しなどを行う。

○自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

・自己点検・評価を充実し，不断の大学改善を進める。

・社会への説明責任を果たすために広報活動を充実し，情報公開を促進する。

Ⅲ　選択評価事項Ｂ　地域貢献活動の状況

１　選択評価事項Ｂ　「地域貢献活動の状況」に係る目的

（1）基本的な目標，基本理念及び社会貢献に関する目的

本学は，基本的な目標として「三重の力を世界へ：地域に根ざし，世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」を掲げ，基本理念として「三重大学は，総合大学として，教育・研究の実績と伝統を踏まえ，「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人財の育成と研究の創成」を目指し，学術文化の受発信拠点となるべく，切磋琢磨する。」と設定している。（資料Ｂ−Ａ）さらに，本学の「社会貢献」の目的として，「教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに，地域社会との双方向の連携を推進する」と設定している。

（2）法人における中期目標

本学の基本的な目標，基本理念及び社会貢献の目的を実現するために，中期目標において社会との連携や社会貢献に関する目標として「地域に根ざした知の支援活動を促進する」と定めている。さらに，教育・研究等他の目標においても地域貢献にかかる項目を設けており，全学で地域貢献活動に取り組んでいる。（資料Ｂ−Ａ）

（3）関連センター等

本学の地域貢献活動に主体的に関わるセンター等として，社会連携研究センター（地域戦略センター，地域圏防災・減災研究センター），高等教育創造開発センター等が整備されており，それぞれの目的に基づき，地域貢献活動に取り組んでいる。（資料Ｂ−Ｂ）

○資料Ｂ−Ａ　国立大学法人三重大学　中期目標（抜粋：地域貢献にかかる部分の例）

Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

１ 教育に関する目標

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

地域･社会に貢献するという目的をもって真摯に学習する意欲や大学での学習の基礎となる学力をもつ学生を受け入れるため，入学者選抜方法を改善する。

２ 研究に関する目標

地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな研究成果を生み出す。さらに，その成果を教育に反映するとともに，広く社会に還元する。

３ その他の目標

（4）附属病院に関する目標

地域住民への健康教育や医療人の生涯教育に貢献するため，自治体や地域医療機関との連携を緊密にし，地域社会の保健・医療水準の向上にとって必要不可欠な指導的中核病院となる。また，高度で先進的な医療を安全に提供する。

Ⅴ その他業務運営に関する重要目標

１ 施設設備の整備・活用等に関する目標

三重大学の特色である三翠（空，樹，波のみどり）と伝統を生かした，人と自然が調和・共生する潤いのあるキャンパス環境を創出する。

○資料B-B　関連センター等の目的

1．社会連携研究センター

外部機関との連携・協力を深め，教育・研究の進展を図り，地域社会における産業，文化と福祉の向上に資することを目的とする。

2．地域戦略センター

地域作りや地域発展に貢献するとともに，地域社会との双方向の連携を推進し，大学が生み出し蓄積している知的財産や人財を地域の自治体や産業界などに還元することを目的とする。

3．地域圏防災・減災研究センター

本学の研究成果及び人的資源を活用して，三重県を中心とした地域圏における防災及び減災に関する研究，教育，社会連携の推進を図るとともに災害医療に寄与することを目的とする。

4．高等教育創造開発センター

本学の教育目標の達成に向けた教育諸活動の創造，開発，推進及び支援を行うことを目的とする。

２　選択評価事項Ｂ　「地域貢献活動の状況」の自己評価

（１）観点ごとの分析

観点Ｂ－１－①：　大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

【観点に係る状況】

本学は，「教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに，地域社会との双方向の連携を推進する」を「社会貢献」の目的として掲げており，この目的を実現するために，中期目標において社会との連携や社会貢献に関する目標を定めているほか，教育・研究等他の目標においても地域貢献にかかる項目を設けている。これらの中期目標を達成するための具体的な措置を中期計画及び年度計画（資料Ｂ-1-①-Ａ～資料Ｂ-1-①-Ｃ）において明確に定めているだけでなく，教育・研究・診療等さまざまな分野においても地域貢献にかかる計画を定めている（資料Ｂ-1-①-Ｄ）。また，本学の社会貢献の目的，中期目標，中期計画・年度計画それぞれについて本学ホームページに掲載して公表するとともに，各種学内会議において教職員に周知を図っている。

資料Ｂ-1-①-Ａ　国立大学法人三重大学　中期計画
http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20140409_cyukikeikaku.pdf

資料Ｂ-1-①-Ｂ　国立大学法人三重大学　年度計画
http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409_h25nendokeikaku.pdf

資料Ｂ-1-①-Ｃ　国立大学法人三重大学　中期計画

３ その他の目標を達成するための措置
（１）社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置
(①知の支援)
１ 公開講座や市民開放授業等，地域住民が参画できる教育活動を充実する。また，教員免許状更新講習等，社会人（同窓生を含む）のキャリアアップ教育に貢献する。
２ 大学が保有する学術資料のデジタルアーカイブ化を進め，公開・展示したり，それらに基づいたシンポジウム等を開催する。また，それらを保管・展示する施設整備を進める。
３ 地域の図書館等，情報関連機関や博物館等と連携して情報サービス体制の整備を図るとともに，大学の施設を活用しながら知的情報を提供する。
４ 地域圏防災・減災研究センターを中心に，三重県等と協働した地域防災活動を積極的に推進できる人材の育成など，地域防災事業を推進する。

資料Ｂ-1-①-Ｄ　国立大学法人三重大学　中期計画（抜粋：地域貢献にかかる部分の例）

Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
１ 教育に関する目標を達成するための措置
（１）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置
(④学生の受入れ)
３ 本学の教育・研究資源を高校教育に役立てるため，引き続き，出前授業，ＳＳＨ，ＳＰＰ，サマーセミナー等の高大連携事業に対して重点的に取り組む。

2 研究に関する目標を達成するための措置
（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置
(②研究成果の教育への反映及び社会への還元)
2 研究成果を広く社会に還元するため，共同研究や受託研究等の推進，特許の出願・企業への技術移転，ベンチャー企業の育成等を推進する。
3 市民や社会に向けた研究成果発表会，研究業績の紹介，ホームページ等を活用した研究成果の周知活動等を積極的に行う。
（2）研究実施体制等に関する目標を達成するための措置
(①戦略的研究推進体制)
3 社会連携研究センターによる自治体等との各種事業，企業等との共同研究や受託研究，特許の出願・企業への技術移転，学外拠点の活用と有効な連携等，産学官連携活動の支援・推進体制を強化する。

3 その他の目標を達成するための措置
（4）附属病院に関する目標を達成するための措置
(②社会貢献)
1 地域の救命救急医療体制の充実に向け，県，津市，医師会等と連携し，救命救急センターを設置するとともに，救急医の養成システムを構築する。
2 三重県難病相談支援センター，へき地医療支援機構との連携強化を図るとともに，医師，看護師等の継続的な教育に貢献し，地域における医療・保健水準の向上及び家庭医などへき地医療に携わる人材を育成する。
3 生活習慣病の予防及び早期発見のための健診（検診）体制を確立する。
4 がん診療連携拠点病院及び肝疾患診療連携拠点病院として，三重県における医療水準の均てん化の実現に向け，指導的役割を果たすとともに，治験拠点病院として質の高い臨床研究・治験を推進し，高度で先進的な医療を安全に提供する。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置
1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置
(①キャンパス環境)
1 人と自然との調和・共生に配慮した地域社会に開かれたキャンパス環境を整備する。
2 環境先進大学としての社会的責任を果たすため，三重大学環境方針の下，有限資源の有効な利活用を図るとともに，エネルギー消費量の低減に向けた取組を推進する。

【分析結果とその根拠理由】
本学の基本的な目標，基本理念及び社会貢献の目的を達成すべく，中期目標において「社会との連携や社会貢献に関する目標」が示されており，その目標を達成するための具体的な措置として，中期計画及び年度計画が明確に定められている。さらに，教育・研究・診療等さまざまな分野においても中期目標・中期計画として地域貢献にかかる項目を定めている。これらの目的，中期目標，中期計画・年度計画は本学ホームページに掲載して公表するとともに，各種学内会議において教職員に周知を行っている。
以上のことから，大学の社会貢献の目的に照らして，目的を達成するためにふさわしい計画が定められている

とともに，これらの目的と計画が適切に公表・周知されていると判断する。

観点Ｂ－１－②：　計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

「教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに，地域社会との双方向の連携を推進する」という本学の社会貢献の目的を実現するために，中期目標に地域貢献に係る目標が設定されており，その目標を達成するための措置は，中期計画及び年度計画のなかで具体化されている。これらの中期計画及び年度計画に基づき，教育・研究・診療等それぞれの分野において全学で地域貢献活動を行っている。

主な活動は，以下の通りである。

Ｉ 社会との連携・社会貢献分野

１．地域の知の支援活動等への取組みについて

⑴ 地域の社会人等を対象とした教育活動を行っており，文部科学省の認定のもとに教員免許状更新講習を実施しているほか（資料Ｂ-1-②-Ａ），市民向け公開講座（資料Ｂ-1-②-Ｂ）や授業を一般に開放する「市民開放授業」等を行っている（資料Ｂ-1-②-Ｃ，資料Ｂ-1-②-Ｄ）。

⑵ 平成 24 年度に，科学技術振興機構が実施する理数系教員（CST（コア・サイエンス・ティーチャー））養成拠点構築事業に採択され，本学と三重県教育委員会が連携し，理数系教員養成プログラムの開発・実施や，地域の理科教育における拠点の構築・活用などを通じた理科教育の中核を担う教員の養成を行っている（資料Ｂ-1-②-Ｅ）。

２．地域への知的情報提供への取組みについて

本学の附属図書館は，「研究支援機能」，「学習支援機能」，「地域貢献機能」の３つの機能をサービスの３本柱に据え，その中の「地域貢献機能」として「学術資料の展示」「各種展示・シンポジウムの実施」「機関リポジトリ」に取組んでいる（資料Ｂ-1-②-Ｆ）。また，県内の図書館や博物館との連携も推進しており，平成 26 年２月には，三重の自然と歴史・文化などの地域資源を活かし，文化振興と地域づくりに寄与することを目的として，三重県総合博物館との間で相互協力協定を締結した（別添資料Ｂ-1-②-1）。

３．地域の防災等に関する研究及び支援の取組みについて

⑴ 本学の位置する三重県は，南海トラフを震源とする東海・南海・東南海地震等による甚大な被害が懸念される地域性から，三重県地域で発生する自然災害に備え，地域圏の防災・減災活動の取組みの充実化や，地域の防災・減災活動を率先して行う人財を育成することを目的として，「みえ防災塾」（平成 25 年度までは「美し国おこし・三重さきもり塾」）等の防災人材育成事業を推進している（資料Ｂ-1-②-Ｇ）。

⑵ 平成 25 年４月より，社会連携研究センター（後述）内に地域圏防災・減災研究センターを設置し，三重地域圏の産学官民連携による防災・減災活動の推進体制を強化した（資料Ｂ-1-②-Ｈ，別添資料Ｂ-1-②-2）。さらに，平成 26 年４月には，地域防災に携わる人財の育成や研究成果の創出などについて，三重県と共同で取り組む全国初の組織として，「三重県・三重大学　みえ防災・減災センター」を設置し，三重地域圏の産学官民連携を充実させている（資料Ｂ-1-②-Ｉ，別添資料Ｂ-1-②-3）。

Ⅱ 教育分野

１．地域の教育活動等への取組みについて

三重県教育委員会との間に連携協力に関する協定を結び，三重県内の学習意欲あふれる高校生が自発的に大学で勉強できる機会を積極的に提供することを目的として，全学的にさまざまな高大連携の取組みを行っている（別添資料Ｂ-1-②-4，資料Ｂ-1-②-Ｊ～資料Ｂ-1-②-Ｌ）。

Ⅲ 研究分野

１．地域の研究活動等への取組みについて

⑴ 外部機関との連携・協力を深め，教育・研究の進展を図り，地域社会における産業，文化と福祉の向上に資することを目的として，社会連携研究センターを設置している（資料Ｂ-1-②-M）。

⑵ これまで蓄積してきた教育・研究資源の提供と地域活性化の促進を目的に，三重県内各地域との間に相互友好協力等に関する協定を締結している（資料Ｂ-1-②-Ｎ）。さらに，三重県内各地域での産学官連携活動を推進するために，四日市市，伊賀市，尾鷲市に拠点となるオフィスを設置している（資料Ｂ-1-②-Ｏ）。

⑶ 平成21年４月に，研究成果等の社会への還元を目的に，社会連携を大学院教育に取り入れた全国初の独立研究科として地域イノベーション学研究科を設置し，地方産業界が求める即戦力型人材の育成に取り組んでいる（資料Ｂ-1-②-Ｐ）。

⑷ 平成23年４月に，社会連携研究センター内に「地域戦略センター」を設置し，三重県内の地方自治体と連携して地域が抱える産業育成，地域振興，観光政策，環境政策等の諸問題に対する政策提言・提案等を行うことにより，積極的に地域貢献に取り組んでいる。これは，大学が蓄積する知の活用によって地域が抱える課題の解決策を提供する「総合シンクタンク」の役割を果たすことを目指している（資料Ｂ-1-②-Ｑ）。

⑸ 平成20年度より，大学全体として地域貢献活動の創造及び推進を目的に，本学教員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動」として毎年公募を行っており，地域と連携して行う教員の活動に対して，本学の活動として認定するとともに，必要な経費を一部助成支援している（資料Ｂ-1-②-Ｒ）。

Ⅳ 診療分野

１．医療活動を通じた地域貢献の取組みについて

⑴ 本学は，平成22年６月に三重県より救命救急センターの指定を受け，病院前医療，３次救急医療，集中医療を行うなど，三重県内の救急医療の中心的役割を担っており，救急医療の質向上を図っている（資料Ｂ-1-②-Ｓ）。また，平成24年２月には，ドクターヘリの運用を開始し，救急現場から迅速かつ高度な医療活動を行うことにより尊い人命の救助につなげている（資料Ｂ-1-②-Ｔ）。

⑵ 本学は，医学部・附属病院が連携し，三重県内の地域医療を支援する活動を行っている。へき地・医師不足地域を含む県内各医療機関に指導医となる教員を配置し，継続的に当該医療機関の医師・看護師等の教育を行うことにより，地域における医療・保健水準の向上を図っている。また，これら地域医療の支援について，実際の診療などを通じ，医療保健体制に関する教育・研究を行い，最適な地域医療体制の確立を目指すことを目的として，三重県各地域に地域医療学講座を設置している（資料Ｂ-1-②-Ｕ）。さらに，

平成 25 年度には，文部科学省の「未来医療研究人材育成拠点形成事業」において「三重地域総合診療網の全国・世界発信」が採択され，さらなる地域医療活性化への基礎的教育研究システムの構築を進めている（資料Ｂ-1-②-Ｖ）。

Ｖ 環境分野

１．環境を通じた地域貢献の取組みについて

(1) 本学は，環境人財の育成に力を入れており，環境，経済，社会の総合的な発展を目指す持続発展教育(ESD)として，環境教育，防災教育，生物多様性教育，世界遺産や文化教育，国際理解教育などを行っている。平成 21 年度には，総合大学で全国初となるユネスコスクールに加盟し，ESD の推進拠点として，三重県，教育機関，地元企業，各種団体等と連携しながら，地域への環境教育の普及・拡大を図っている（別添資料Ｂ-1-②-5）。

また，平成 24 年度に，自主財源で「環境・情報科学館」を整備し，環境団体や企業，自治体等と連携して環境教育・研究等の情報発信や地域住民との交流を行うなど，環境先進大学として積極的な取組みを行っている（資料Ｂ-1-②-W）。

(2) 本学は，全国の国立大学では数少ない「海に近い大学」として，海岸（名称：町屋海岸）に隣接している。町屋海岸は，自然豊かな場であり，景観も素晴らしいことから，本学では，学生が中心となり環境 ISO 学生委員会を組織し，地域住民とともに年５回，ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っている（資料Ｂ-1-②-X）。また，当該活動と並んで，近隣の小学校の児童を対象に，環境問題等について学習する機会を設けるなど，環境に対する意識の向上を図っている（資料Ｂ-1-②-Y）。

○資料Ｂ-1-②-Ａ　教員免許状更新講習　https://www.mie-u.ac.jp/certificate/

○資料B-1-②-B　平成 25 年度市民向け公開講座

平成25年度

三重大学市民向け講座 回覧

人文学部　伊賀連携フィールド2013年度「忍者・忍術学講座:忍術書を読み解く」

後援／三重大学伊賀連携フィールド

● 会場／ハイトピア伊賀3階 上野商工会議所 コミュニティ情報プラザホール
● 参加料／無料　● 定員／自由参加　● 対象者／市民一般

① 義盛百首の世界
7月20日［土］／10:30～12:00
◎講師◎ 本廣 陽子（人文学部・准教授）

② 忍術と妖術
8月17日［土］／10:30～12:00
◎講師◎ 吉丸 雄哉（人文学部・准教授）

③ 忍術に見る修験道の影響
9月21日［土］／10:30～12:00
◎講師◎ 山田 雄司（人文学部・教授）

問い合わせ先　人文学部チーム総務担当 ☎059-231-9194　E-mail hum-somu@ab.mie-u.ac.jp

はてな？「発見塾」

後援／三重大学

● 会場／①②③⑤ 津リージョンプラザ2階 健康教室　④ 津市芸濃総合庁舎2階 芸濃コミュニティセンター
● 参加料／無料　● 定員／自由参加　● 対象者／市民一般

① これであなたも蝶博士
7月27日［土］／13:30～15:00　◎講師◎ 宮嶋 照雄（生物資源学部・名誉教授）

② 千歳山・半泥子ワールドへようこそ
9月28日［土］／13:30～15:00　◎講師◎ 菅原 洋一（工学研究科・教授）

③ ハゲはなぜ悩ましいのか ―劣等感の社会史―
11月30日［土］／13:30～15:00　◎講師◎ 森 正人（人文学部・准教授）

④ 高血圧を予防・治療して、延ばそう健康寿命
2014年1月25日［土］／13:30～15:00　◎講師◎ 伊藤 正明（医学部附属病院・教授）

⑤ 健康寿命を延ばすための食生活とは？
2014年3月22日［土］／13:30～15:00　◎講師◎ 矢野 裕（医学部・准教授）

問い合わせ先　附属図書館 ☎059-231-9032　E-mail lib-kikaku@ab.mie-u.ac.jp
URL http://www.lib.mie-u.ac.jp/

第16回「リフレッシュ理科教室」『磁石でまわる!はねる!とぶ!楽しい工作』

主催／三重大学CSTサポート室、公益社団法人応用物理学会、津市教育委員会
後援／三重県教育委員会、朝日新聞社、伊勢新聞社、NHK津放送局、株式会社ZTV、中日新聞社、毎日新聞社、三重テレビ放送、読売新聞社、その他関連学会

● 会場／三重大学講堂小ホール　● 参加料／無料　● 定員／各60名　● 対象者／23日 県内小中学校教諭　24日 小学3年生～中学生

8月23日［金］／13:00～17:00
24日［土］／①10:00～11:30、②13:00～14:30
③15:00～16:30

◎講師◎ 竹尾 隆（工学部・教授）、三宅 秀人（工学部・准教授）、佐藤 英樹（工学部・准教授）、松井 龍ノ介（工学部・准教授）、藤原 裕司（工学部・准教授）
◎申込方法◎ E-mailまたはホームページ　◎申込期間◎ 7月1日～8月1日

申込み・問い合わせ先　藤原 裕司（工学研究科・准教授）　E-mail refresh@ne.phen.mie-u.ac.jp
URL http://www.ne.phen.mie-u.ac.jp/user/RefreshRika/

携帯電話でもご覧になれます。→ QRコード

第6回 久留倍官衙遺跡講演会

共催／三重大学考古学研究室、久留倍官衙遺跡を考える会、三重大学人文学部伊勢湾・熊野地域研究センター

● 会場／あさけプラザ（四日市市富田）　● 参加料／無料　● 定員／300名　● 対象者／市民一般

10月26日［土］／13:00～17:00　問い合わせ先　三重大学考古学研究室　山中 章 ☎059-231-9148　E-mail yaa1948@gmail.com

① 久留倍官衙遺跡の立体復元　◎講師◎ 箱崎 和久（奈良文化財研究所・遺構研究室長）

② 鈴鹿関のCG復元　◎講師◎ 関口 敦仁（愛知県立芸術大学・教授）

③ 長岡京のCG復元　◎講師◎ 河角 龍典（立命館大学・准教授）

④ 海外遺跡復元事情　◎講師◎ 山中　章（三重大学・名誉教授）

壬申の乱ウォーク

共催／三重大学考古学研究室、久留倍官衙遺跡を考える会、三重大学人文学部伊勢湾・熊野地域研究センター

①● 会場／京都府乙訓郡大山崎町周辺　● 参加料／バス代4000円
● 定員／100名　● 対象者／市民一般

②● 会場／津市周辺　● 参加料／無料
● 定員／自由参加　● 対象者／市民一般

① 第30回 大友皇子自害の地山崎を歩く
11月9日［土］／8:00～17:00　◎講師◎ 山中 章（人文学部・名誉教授）
◎申込方法◎ 電話、メール

② 第31回 聖武天皇行幸地・河口頓宮を訪ねて
2014年2月8日［土］／9:00～13:00　◎講師◎ 山中 章（人文学部・名誉教授）

申込み・問い合わせ先　三重大学考古学研究室　山中 章 ☎059-231-9148　E-mail yaa1948@gmail.com

教育学部理科教育 青少年のための科学の祭典2013

主催／「青少年のための科学の祭典」三重大学大会実行委員会、日本科学技術振興財団

● 会場／三重大学講堂　● 参加料／無料　● 定員／自由参加　● 対象者／児童、保護者、市民一般

11月16日［土］／13:00～17:00、11月17日［日］／10:00～16:00　◎出展者◎ 三重大学教員・学生、中学校・高校教員、科学ボランティア 他

問い合わせ先　三重大学教育学部　後藤 太一郎 ☎059-231-9260　URL http://sci.edu.mie-u.ac.jp/

三重大学　〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL 059-232-1211（代）　http://www.mie-u.ac.jp/

公開講座についての最新情報はこちら↓
http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/open.html

平成25年度　学部主催公開講座

人文学部「公開ゼミ」 開催期間 9月~12月

①『宝島』入門
9月10日[火]、17日[火]、24日[火]／10:30~12:00
◎講師◎ 赤岩　隆(人文学部・教授)

②日本の社会保障を考える～医療、介護を中心に～
9月11日[水]、18日[水]、25日[水]／19:00~20:30
◎講師◎ 和田 康紀(人文学部・准教授)

③ことばの意味とコミュニケーション
10月1日[火]、8日[火]、15日[火]／10:30~12:00
◎講師◎ 澤田　治(人文学部・准教授)、吉田 悦子(人文学部・教授)

④英文法を科学する!?
10月1日[火]、8日[火]、15日[火]／16:20~17:50
◎講師◎ 杉崎 鉱司(人文学部・教授)

⑤フェニキア都市からローマ都市へ ～地中海沿岸部に展開した古代都市文明を探る～
10月23日[水]、30日[水]、11月6日[水]／14:40~16:10
◎講師◎ 山中　章(人文学部・名誉教授)

⑥歓待について考える
11月5日[火]、12日[火]、19日[火]／19:00~20:30
◎講師◎ 石井 眞夫(人文学部・名誉教授)、立川 陽仁(人文学部・准教授)
北川 眞也(人文学部・准教授)

⑦文化の違いとコミュニケーション
11月22日[金]、29日[金]、12月6日[金]／13:00~14:30
◎講師◎ 藤本 久司(人文学部・准教授)

⑧災害時の国、自治体、住民・ボランティアの役割と法
11月25日[月]、12月2日[月]、9日[月]／19:00~20:30
◎講師◎ 前田 定孝(人文学部・准教授)

● 会場／三重大学人文学部　● 受講料／無料　● 定員／各20名　● 受講対象者／市民一般
● 申込期間／8月初旬～各開講日の5日前まで（定員まで先着順に受け付けます。）　● 申込方法／電話、FAX、E-mail

申込み・問い合わせ先　人文学部チーム総務担当
☎059-231-9196, 059-231-9195　FAX.059-231-9198　E-mail hum-somu@ab.mie-u.ac.jp　URL→ http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/kouza/

医学部「公開講座」

①「同じ地域住民として外国人との共生を」、他
10月開催予定
◎講師◎ 畑下 博世(医学部・教授)他
※全3講座を予定。詳細は8月下旬頃に右記URLに掲載予定です。

● 会場／三重大学医学部先端医科学教育研究棟
● 受講料・定員／無料・100名　● 受講対象者／市民一般
医学部市民公開講座情報
http://www.medic.mie-u.ac.jp/event/opensemi.php

問い合わせ先　医学系研究科チーム総務グループ ☎059-231-5428　FAX.059-232-7498　E-mail med-soumu@mo.medic.mie-u.ac.jp

生物資源学部「公開講座」

①親子(孫)で120%科学を楽しむ　仮説実験講座「銀ピカ・金ピカのひ・み・つ」
8月10日[土]、11日[日](2日間連続講座)／10:00~15:00
◎講師◎ 木村 妙子(生物資源学部・准教授)

● 会場／三重大学生物資源学部
● 受講料・定員／1家族5,500円（実験BOX含む）・60名
● 受講対象者／小学生～大人
● 申込期間／～7月19日［金］（定員になり次第締切）
● 申込方法／E-mailまたはFAX（振込は申込受付後）

問い合わせ先　生物資源学研究科チーム総務担当 ☎059-231-9673　FAX.059-231-9634　E-mail bio-somu@ab.mie-u.ac.jp

平成25年度 後期三重大学市民開放授業　＊開催期間／2013年後期の講義期間

三重大学では,本学が開講している正規の授業を市民等の皆様に学生とともに受講していただく三重大学市民開放授業を開設しております。募集要項や申込方法等詳しくはこちらをご覧ください。
→ http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/extension.html

● 募集定員／1科目2名～20名(授業科目により異なります。)
● 受 講 料／1科目9,400円（一部の科目13,500円）
● 受講資格／ありません。
ただし、受講条件や授業の概要を確認し、お申し込みください。
● 受講申込受付期間／9月2日［月］～9月9日［月］

授業科目	
人文学部	ドイツの文学D、ドイツの文学F、中国語作文B、中国語会話B、ドイツの言語D、自然環境論B、日本考古学特講D
教育学部	メディアリテラシーと情報表現II、現代社会の課題と国民的教養、教育社会学、教育社会学演習、教育と福祉
工学部	量子力学I(電気電子工学科)、電磁気学II及び演習、量子力学II（物理工学科）、人工知能II
生物資源学部	資源動物学、環境経済学、流域保全学、食料生産システム学、景観設計論、植物病害制御学
国際交流センター	基礎I生活日本語1B、基礎I生活日本語2B、中級I文法・読解B、中級II文法・読解B、地域研究:ベトナムB、プロテストソング論
共通教育センター	比較政治文化、建築・技術・人間-防災論、日本史IV、ドイツ語I基礎（後）、ドイツ語I演習（後）、ドイツ語II講読、ドイツ語II演習、英語IIITOEIC受験対策

問い合わせ先　学務部教務チーム ☎059-231-5520 または、各学部学務担当(募集要項参照)

生物資源学部特別支援プログラム　＊開催期間／2013年後期の講義期間

農学関連特別プログラム・森林関連特別プログラム・水産関連特別プログラムを開講しています。募集要項や申込方法等詳しくはこちらをご覧ください。
→ http://www.bio.mie-u.ac.jp/pdf/tokubetu2013.pdf

● 募集定員／各プログラム若干名
● 受 講 料／入学料：28,200円　授業料：1科目9,400円、後期コース56,400円
● 受講資格／学校教育法第90条第1項の規程により大学に入学することができる者で、教授会が当該プログラムを履修するに十分な学力があると認めた者。
● 受講申込受付期間／7月29日［月］～8月2日［金］

授業科目	
農学関連特別プログラム（後期コース）	植物遺伝育種学、野菜環境生理学、食用作物学、昆虫学、植物病原微生物学、生理生態機能調節実習および生物資源有効利用実習（後期コース）
森林関連特別プログラム（後期コース）	樹木生理学、森林・緑環境評価学、森林航測学、治水砂防学、森林・緑環境計画学、森林資源生物学実験
水産関連特別プログラム（後期コース）	海事概論、水産食品衛生学、海洋個体群動態学、水族増殖生態学、資源生物学、海洋動物学実験

問い合わせ先　生物資源学部チーム 学務担当 ☎059-231-9735

三重大学のテレビ番組が始まるよ
MTV 三重テレビ放送 第1チャンネル
毎月第4火曜日
①12:00~12:29
②17:00~17:29(再)
毎月第4水曜日
③7:00~7:29(再)
※再放送は第2チャンネル
きらめく群像 ～三重大学の財(たから)～
三重大学の教員を中心に大学の「今」をご紹介します。

（出典：本学ウェブサイト http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/pdf/2013siminkouza.pdf）

○資料B-1-②-C　平成26年度市民開放授業科目等一覧

学期	学部等	授業科目	曜日	募集定員	受講料	受講条件(損保等加入等)
前期	人文学部	ドイツの言語A	月	3	9,400円	ドイツ語の基礎的な文法を習得していること
		ドイツの文学G	月	5	9,400円	なし
		自然環境論A	水	5	9,400円	なし
		ドイツ文学演習E	木	5	9,400円	中級程度のドイツ語読解力のある方
		日本考古学特講E	木	10	9,400円	なし
	教育学部	学校教育研究演習Ⅰ	月	3	9,400円	なし
		被服学概論	月	3	9,400円	損保等加入
		博物館・情報メディア論	木	20	9,400円	なし
	工学研究科	量子力学Ⅱ（電気電子工学科）	月	10	9,400円	なし
		量子力学Ⅰ（物理工学科）	月	若干名	9,400円	なし
	生物資源学研究科	微生物学	水	2	9,400円	なし
		森林有機化学	木	2	9,400円	なし
		分子遺伝学	火	2	9,400円	なし
		海洋食糧機能化学	火	2	9,400円	なし
		水族生理学	水	2	9,400円	なし
	国際交流センター	基礎Ⅰ生活日本語1A(きそⅠせいかつにほんご1A)	木	2	9,400円	はじめてにほんごをべんきょうするひとむけです。にほんごレベルはんていしけんをうけなければなりません。
		基礎Ⅱ生活日本語3A（きそⅡせいかつにほんご3A）	月	2	9,400円	にほんごしょきゅうをもういちどべんきょうしたいひとむけのじゅぎょうです。にほんごレベルはんていしけんをうけなければなりません。
		中級Ⅰ文法・読解A（ちゅうきゅう　Ⅰ　ぶんぽう・どっかいA）	水	2	9,400円	中級レベルを目指したい人向け。にほんごレベルはんていしけんをうけなければなりません。
		中級Ⅱ文法・読解A	火	2	9,400円	日本語能力試験１，２級を目指す人向けの授業です。日本語レベル判定試験を受けなければなりません。
	共通教育センター	志摩の海女文化	月	20	9,400円	なし
		東洋史Ⅱ	水	5	9,400円	なし
		急病の観察と判断	水	10	9,400円	なし
		日本史Ⅱ	木	20	9,400円	なし
		化学の話題から	木	10	9,400円	なし
		文化の意義を考え直す	金	10	9,400円	なし
		ドイツ語Ⅰ基礎（前）	火	5	9,400円	なし
		ドイツ語Ⅰ演習（前）	木	5	9,400円	なし
		ドイツ語Ⅱ講読	月	5	9,400円	ドイツ語文法の基礎を理解していること
		ドイツ語Ⅱ演習	木	5	9,400円	初級文法を修得していること
		英語ⅡＴＯＥＩＣ受験対策	火	10	9,400円	なし
		英語ⅡＴＯＥＩＣ受験対策	木	10	9,400円	なし
後期	人文学部	ドイツの言語B	月	3	9,400円	ドイツ語の基礎的な文法を習得していること
		ドイツ文学論B	月	5	9,400円	なし
		自然環境論B	水	3	9,400円	なし

		日本考古学特講F	木	10	9,400円	なし
	教育学部	現代社会の課題と国民的教養	火	10	9,400円	なし
		教育社会学	火	3	9,400円	なし
		教育社会学演習	月	3	9,400円	なし
		被服構成学	水	3	9,400円	損保等加入
		メディアリテラシーと情報表現Ⅱ	月	20	9,400円	なし
	工学研究科	量子力学（電気電子工学科）	月	10	9,400円	なし
		電磁気学Ⅱ及び演習	火，水，	10	13,500円	なし
		技術者倫理	木	3	9,400円	三重大学のMoodleを使用できること
		量子力学Ⅱ（物理工学科）	月	若干名	9,400円	なし
	生物資源学研究科	資源動物学	月	2	9,400円	なし
		環境経済学	月	2	9,400円	なし
		流域保全学	水	2	9,400円	なし
		食料生産システム学	水	2	9,400円	なし
		景観設計論	月	2	9,400円	なし
		果樹生育生理学	火	2	9,400円	なし
	国際交流センター	基礎Ⅰ生活日本語1B(きそⅠせいかつにほんご1B)	木	2	9,400円	はじめてにほんごをべんきょうするひとむけです。にほんごレベルはんていしけんをうけなければなりません。
		基礎Ⅱ生活日本語3B (きそⅡせいかつにほんご3B)	月	2	9,400円	にほんごしょきゅうをもういちどべんきょうしたいひとむけのじゅぎょうです。にほんごレベルはんていしけんをうけなければなりません。
		中級Ⅰ文法・読解B	水	2	9,400円	中級レベルを目指したい人向け。にほんごレベルはんていしけんをうけなければなりません。
		中級Ⅱ文法・読解B	火	2	9,400円	日本語能力試験１，２級を目指す人向けの授業です。日本語レベル判定試験を受けなければなりません。
	共通教育センター	比較政治文化	月	10	9,400円	なし
		建築・技術・人間-防災論	月	10	9,400円	なし
		東洋史Ⅱ	水	5	9,400円	なし
		日本史Ⅳ	木	20	9,400円	なし
		知財学入門	金	10	9,400円	なし
		ドイツ語Ⅰ基礎（後）	火	5	9,400円	なし
		ドイツ語Ⅰ演習（後）	木	5	9,400円	なし
		ドイツ語Ⅱ講読	月	5	9,400円	ドイツ語文法の基礎を理解していること
		ドイツ語Ⅱ演習	木	5	9,400円	初級文法を修得していること
		英語ⅡＴＯＥＩＣ受験対策	火	10	9,400円	なし
		英語ⅡＴＯＥＩＣ受験対策	木	10	9,400円	なし

（出典：本学ウェブサイト（http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/extension.html）を基に作成）

○資料B-1-②-D　平成25年度みえアカデミックセミナー

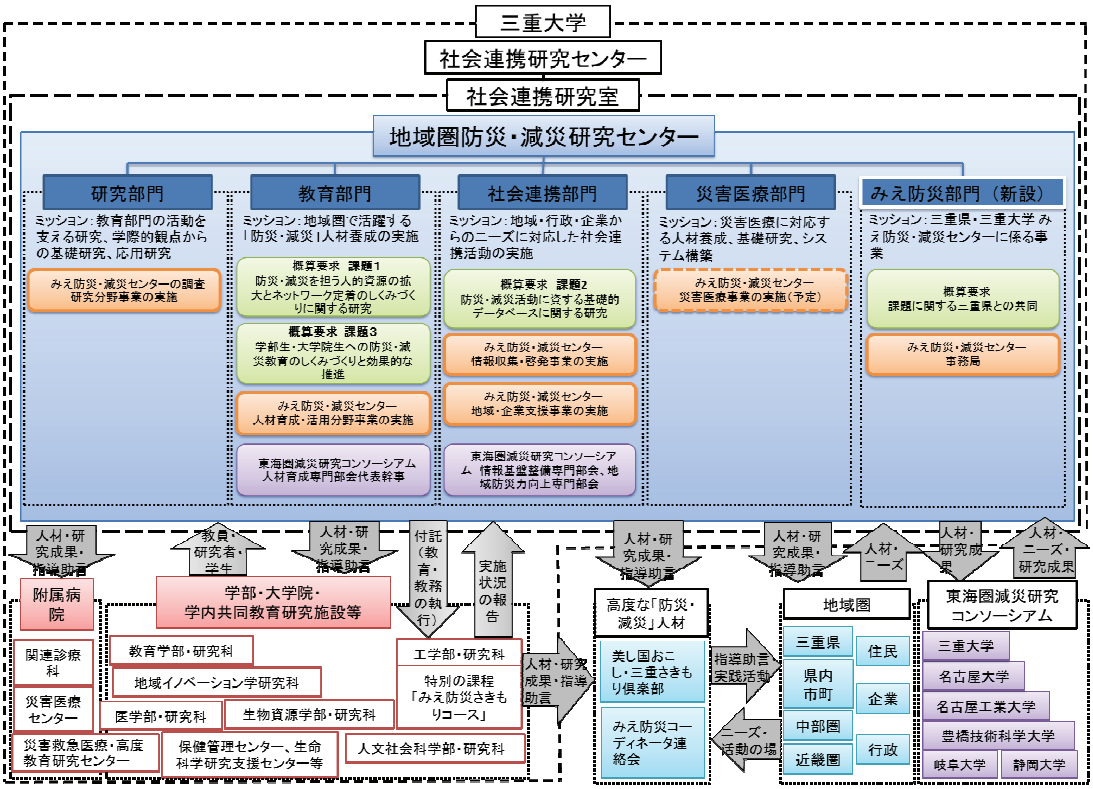
（出典：本学ウェブサイト：http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2014/03/2013-9.html）

○資料B-1-②-E　理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）養成拠点構築事業
http://cst.pj.mie-u.ac.jp/

○資料B-1-②-F　三重大学附属図書館概要（2013）
http://www.lib.mie-u.ac.jp/about_library/outline/outline2013.pdf

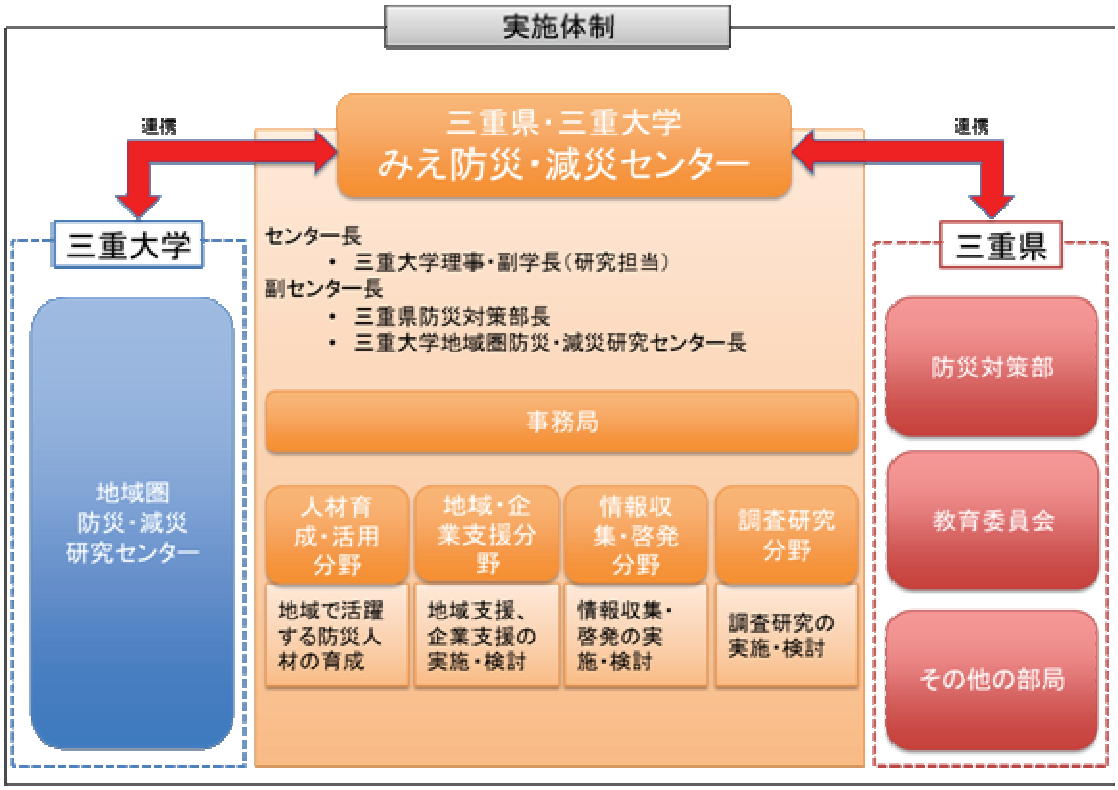
○資料B-1-②-G　みえ防災塾（旧「美し国おこし・三重さきもり塾」）
http://www.sakimori.eng.mie-u.ac.jp/

○資料B-1-②-H　地域圏防災・減災研究センター



（出典：地域圏防災・減災センター作成資料）

○資料B-1-②-Ⅰ　三重県・三重大学　みえ防災・減災研究センター



（出典：みえ防災・減災センター作成資料）

○資料B-1-②-Ｊ　高大連携の取組みについて

事業名	取組み内容
サマーセミナー	夏休み期間中，高校生を対象とした授業を実施している。
東紀州講座	木本・尾鷲高校生を対象とした公開講座。三重大学と両校の密接な連携のもと三重大学の教育研究資源を両校生へ開放し，学習意欲あふれる進学希望者をより多く確保することを目的としている。両校は本学から遠いため，教員が出向いて講座を開いている。
高校生向け公開講座	毎週9・10限（16時20分～17時50分）に共通教育科目を高校生向け公開授業として開講している。（下記：資料B-1-②-K）
スーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）	文部科学省より，科学技術，理科・数学教育を重点的に行う「スーパーサイエンス・ハイスクール」として指定された高等学校に対し，当該事業の取組みに協力している。
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）	児童生徒の科学技術，理科・数学に対する興味・関心と知的探求心等を育成することを目的として，学校等と大学・科学館等との連携により，科学技術，理科・数学に関する観察，実験，実習等の体験的・問題解決的な学習活動に対する支援を行っている。
出前授業	本学教員が直接，三重県内の中学校や高等学校に出向き，専門とする教育・研究内容等についてわかりやすく説明する出張講義を行っている。人文学部，工学部，生物資源学部において実施している。（下記：資料B-1-②-L）

（出典：教務チーム提供資料より作成）

○資料B-1-②-K　平成25年度高大連携授業科目一覧

学期	曜日	授業科目名	分野	授業のテーマ	認定単位数
前期	火	教養社会学Ⅱ	社会	古典映画にみる人間のあり方	2
	火	臨床医学の最近の話題	自然	臨床医学各領域のトピックスを分かりやすく解説する	2
	木	演劇入門	人文	演劇に親しむ	2
	木	化学の話題から	自然	化学という学問の特徴を理解する	2
	木	癌治療の最前線	社会，自然	一言で「癌」といっても，その発生部位により，病態，治療法，治療成績が著しく異なることを理解し，さらに癌治療法の現状と将来について知識を深めることを目標とする	2
	木	環境と微生物	自然	環境，微生物，富栄養化，バイオマス，プロバイオティックス，消化管微生物，地球温暖化，環境修復，環境保全	2
	金	自然環境概論	自然	自然環境において森林が果たす役割	2
	金	環境と生物	自然	森林，木材，居住環境，木造建築	2
	金	数学の話題からⅢ	自然	数学のいくつかの分野からの話題	2
後期	月	森林環境とその保全	自然	森林生態系，森林の環境，森林の機能，森林資源調査，世界の森林資源，持続可能な森林経営	2
	月	建築・技術・人間－防災論	社会，自然	自然債学，建築防災，地域防災	2
	月	社会連携実践Ⅱ	社会	地域の課題を知り解決策を考える	2
	火	西洋史Ⅰ	人文	西洋史　アメリカ社会　近代化	2
	火	癌の最新の診断と治療	自然	さまざまな癌の診断と治療法のﾄｯﾋﾟｯｸｽを分かりやすく解説する	2
	水	Protest Song Studies（プロテストソング論）	人文，社会	プロテストソング，反戦，反核兵器，反公害，世界，市民	2
	木	国際保健と地域医療	社会	国際医療協力，公衆衛生，外国の医療，地域医療，へき地医療	2
	木	共通セミナーF	人文	新宗教について考える	2
	木	共通セミナーF	自然	先端再生医療工学を学ぶ	2
	金	知財学入門	社会	知財マインドの醸成	2

（出典：本学ウェブサイト（http://www.mie-u.ac.jp/koudai/about/12open.html）を基に作成）

○資料B-1-②-L　出前授業

http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/demae/　（人文学部）

http://www.eng.mie-u.ac.jp/community/for-highschools/h26_demae_list.pd

（工学研究科）

http://www.bio.mie-u.ac.jp/about/service/outside/26demaemenu.pdf

（生物資源学研究科）

○資料B-1-②-M　社会連携研究センター　http://www.crc.mie-u.ac.jp/

○資料B-1-②-N　三重県地域との相互友好協力等に関する協定一覧（平成26年4月1日現在）

協定名・協定締結先等	締結日
①三重県との協定	
海の博物館	平成16年3月18日

三重県との防災協定	平成17年12月21日
三重県との災害対策相互協力細目協定	平成19年3月20日
三重県科学技術振興センター	平成19年3月23日
三重県との「新県立博物館」にかかる連携協定	平成21年3月16日
三重県との「医療」分野における連携に関する協定	平成22年1月29日
三重県（防災危機管理部）	平成22年5月26日
三重県との実演芸術の振興等にかかる連携に関する協定	平成25年9月12日
三重県総合博物館	平成26年2月26日
三重県との『みえ防災・減災センター』設置に関する協定	平成26年4月1日
②三重県内市町村との協定	
尾鷲市	平成14年12月2日
四日市市	平成15年10月7日
亀山市	平成16年1月27日
鳥羽市	平成16年3月22日
朝日町	平成16年6月9日
伊賀市	平成18年1月23日
南伊勢町	平成18年5月12日
津市	平成21年2月20日
志摩市	平成21年7月6日
鈴鹿市	平成22年6月30日
伊勢市	平成23年1月27日
桑名市	平成25年7月1日
松阪市	平成25年8月29日

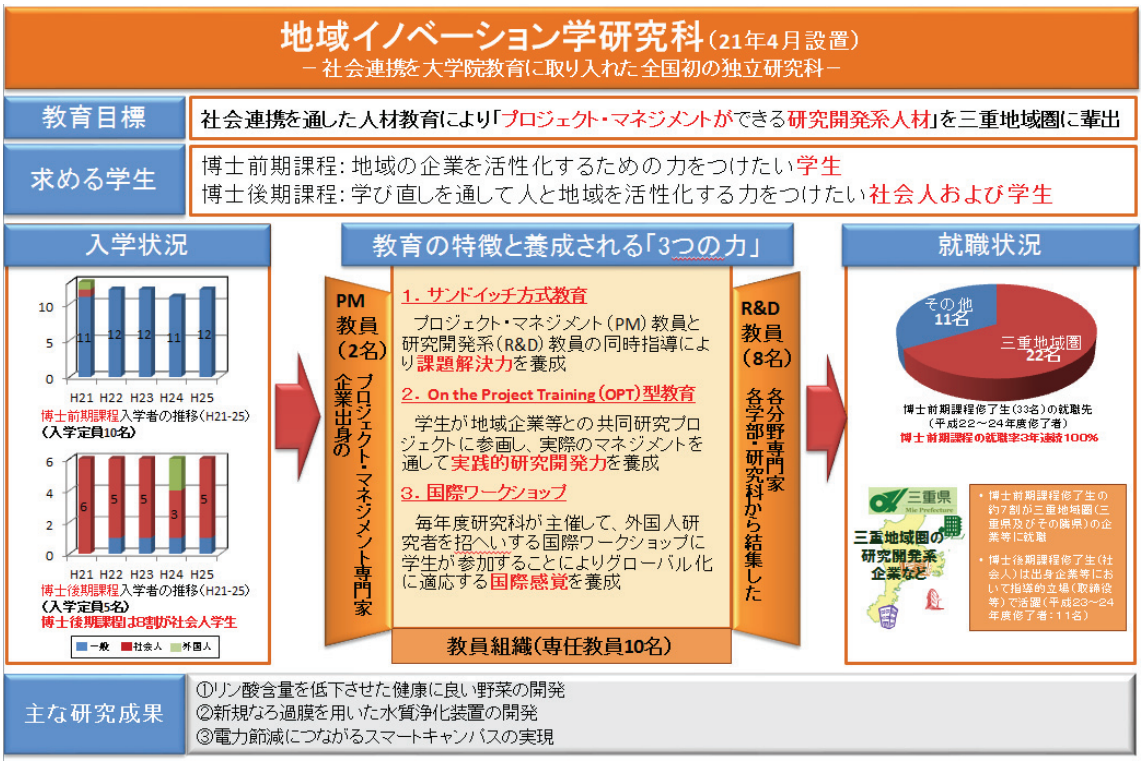
（出典：総務チーム提供資料を基に作成）

○資料B-1-②-O　三重県内各地域の産学官連携活動拠点

所在地	名称	設置年度	設置目的等
四日市市	四日市フロント	平成15年度	三重県北勢地域での産学官連携活動を推進し，地域企業や市民と一層密着し活動する拠点として設置。
伊賀市	伊賀研究拠点	平成20年度	本学の教育・研究の成果をもとに，伊賀地域を中心に，地方公共団体，各種団体及び民間企業等と連携し，文化，教育，学術，経済及び社会の進展を図ることを目的に設置。
	伊賀連携フィールド	平成24年度	上野商工会議所及び伊賀市と連携し，教育・文化振興・研究の推進を図るとともに，地域振興上の諸課題等に適切に対応することにより伊賀地域の充実・発展に貢献することを目的に設置。
尾鷲市	三重大学連携室	平成23年度	海洋深層水の利活用や熊野古道の調査研究等，本学が尾鷲市とともに実施している事業をさらに円滑に実施するために設置。本学教職員が会議や研究の場として利用するほか，尾鷲市内の事業所，団体，市民からの技術相談の場としても活用している。

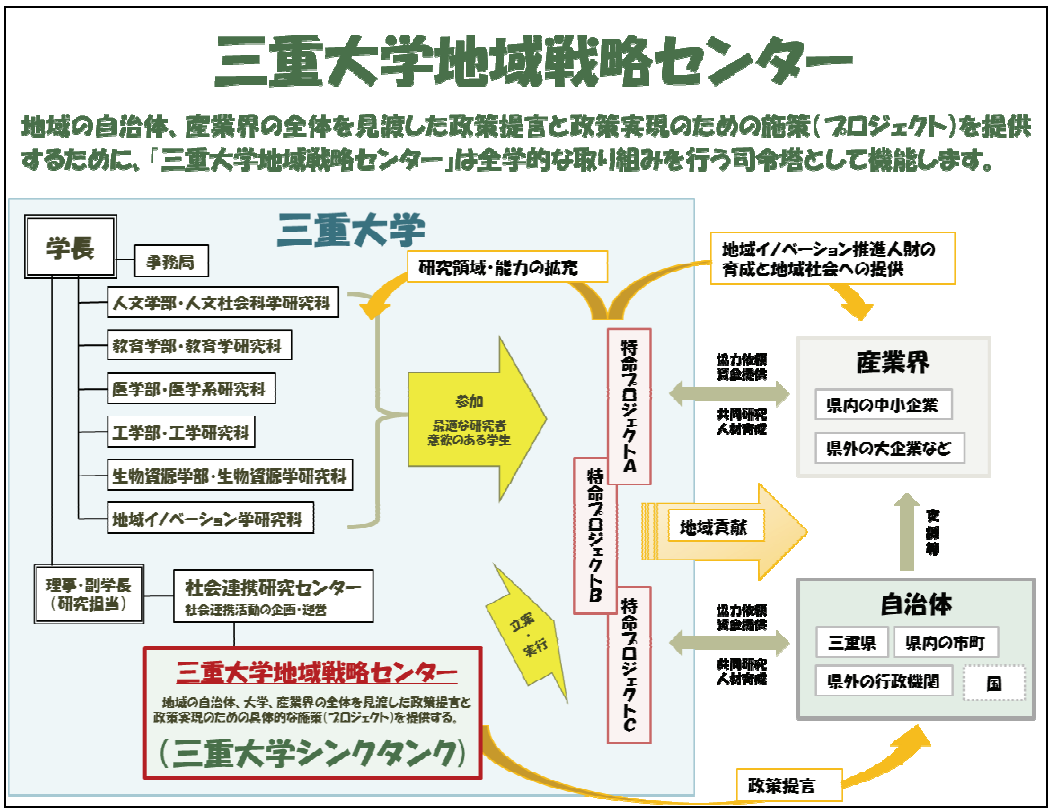
（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○資料B-1-②-P　三重大学大学院地域イノベーション学研究科概要



（出典：地域イノベーション学研究科作成資料）

○資料B-1-②-Q　地域戦略センター　http://rasc-mie.jp/



（出典：地域戦略センター作成資料）

○資料B-1-②-R　平成25年度三重大学地域貢献活動一覧

部局等名	地域貢献活動の内容
人文学部	大学・市民連携による持続的地域文化運動の構築～奥熊野山村古文書の調査と活用～
	「多文化共生を支援するワークプレイスの課題を探る：接触場面における情報共有と リスク回避のためのコミュニケーション行動調査」
	伊賀における「忍者」文化に着目した地域活性化の取り組み
	伊賀市における中心市街地活性化の取り組み
	遊休農地を活用した体験農園の開設による食育及び産消連携の推進
	津市における芸術文化振興活動の拠点と街づくり
教育学部	第18回ジュニアアスリートフェスティバル　～小学生の「走る」「跳ぶ」「投げる」機会の創出～
	「世界遺産・熊野古道」の保全と次代への継承
	社会的な結びつきを育むエクササイズ・プログラムの普及
	三重の産業を組み合わせた複合商品の開発と知財教育
	津市における健康づくり活動推進（特に運動面からの活動支援）
医学部・医学系研究科	精神に障がいを抱えながら子育てする親と子どもへの支援
	産業廃棄物処理場が点在する並びに居住地域での牧場経営が開始された地域の環境調査及び住民の健康調査と健康教育活動
	ワールドカフェ方式を用いた，地域を志向する医学生を含む住民を巻き込んだ医療・保健・福祉分野でのまちづくり体制の構築
工学研究科	風力発電を題材とした小中学生のための環境体験学習
	光技術による地域産業の活性化
	科学工作教室を通した県内小中学校教員に対する理科教育啓発活動
生物資源学研究科	三重にツルをよぼうプロジェクト（スタートアップ）
	地域の親子を対象とした科学講座《親子(孫)でたのしむ仮説実験講座》の企画と実施
附属病院	三重県内の医療機関におけるアンチバイオグラムの作成
社会連携研究センター(伊賀研究拠点)	理科教育振興のための出前授業の実践とそれに伴う教材製作（2年次）
社会連携研究センター（地域圏防災・減災研究センター）	地域内コミュニティの「共助」としての「災害時要援護者とその支援者」の活動支援

（出典：本学ウェブサイト（http://www.mie-u.ac.jp/kouken/）を基に作成）

○資料B-1-②-S　救命救急センター

http://www.hosp.mie-u.ac.jp/kyuukyuu/saito/homu.html

○資料B-1-②-T　ドクターヘリ運航状況

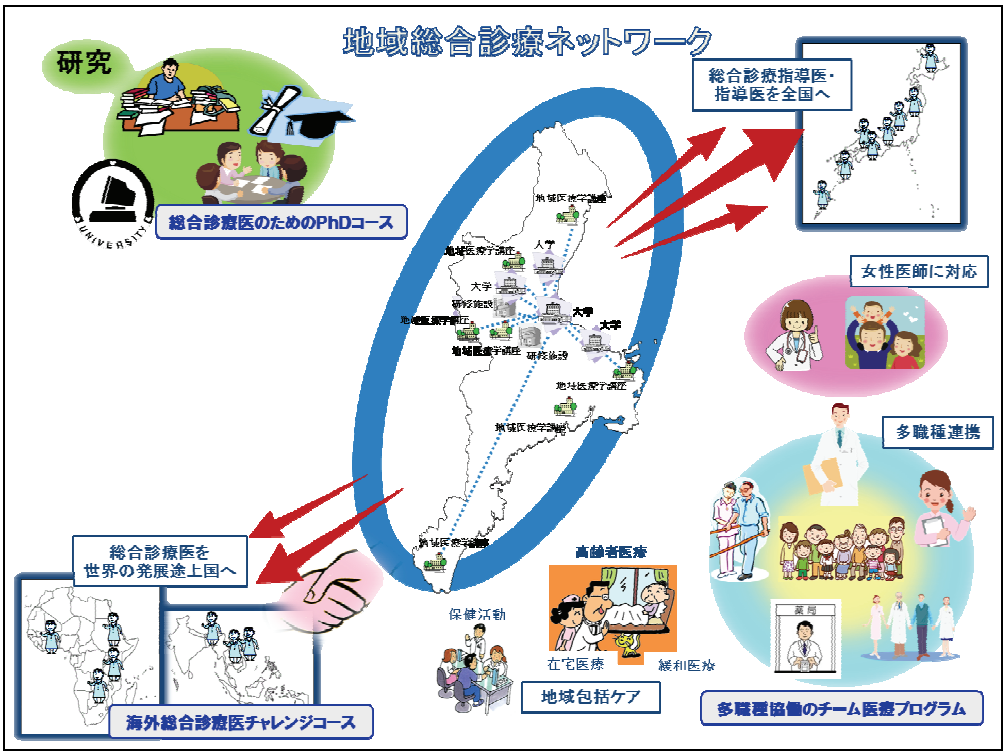
（出典：附属病院作成資料）

○資料B-1-②-U　地域医療学講座一覧（平成 26 年 4 月 1 日現在）

講座名	相手先等	設置期間（更新あり）
亀山地域医療学講座	亀山市からの寄附により設置	平成 23 年 6 月～29 年 5 月
伊賀地域医療学講座	伊賀市・名張市からの寄附により設置	平成 24 年 4 月～28 年 3 月
津地域医療学講座	津市からの寄附により設置	平成 24 年 9 月～28 年 3 月
県南部地域医療学講座	三重県からの寄附により設置	平成 26 年 1 月～28 年 3 月
循環器内科地域連携学講座	医療法人永井病院（三重県津市）からの寄附により設置	平成 26 年 2 月～28 年 3 月

（出典：附属病院提供資料を基に作成）

○資料B-1-②-V　未来医療研究人材育成拠点形成事業　http://www.derfcm-mie-u.info/



（出典：附属病院作成資料）

○資料B-1-②-W　環境情報科学館について

http://www.gecer.mie-u.ac.jp/topics/42meipl.html

（出典：広報用撮影写真）

○資料B-1-②-X　町屋海岸清掃活動について

（出典；本学ウェブサイトhttp://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/local/clean.html）

○資料B-1-②-Y　近隣小学校児童への環境教育の取組み

（出典；本学ウェブサイトhttp://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/local/education.html）

別添資料B-1-②-1	国立大学法人三重大学と三重県総合博物館との相互協力協定書
別添資料B-1-②-2	三重大学社会連携研究センター社会連携研究室地域圏防災・減災研究センター内規
別添資料B-1-②-3	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター設置に関する協定書
別添資料B-1-②-4	三重大学と三重県教育委員会との連携協力に関する協定書
別添資料B-1-②-5	ユネスコスクール活動

【分析結果とその根拠理由】

本学の社会貢献の目的の実現を目指し，中期目標に掲げる地域貢献に係る目標の達成に向けて，中期計画及び年度計画に基づき，教育・研究・診療等それぞれの分野において，全学として地域貢献活動が実施されている。

以上のことから，計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

観点Ｂ－１－③：　活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

本学は，前述（観点B-1-②）の通り，教育・研究・診療等それぞれの分野において，定められた計画に基づいて適切に地域貢献活動を行っており，具体的な実績，各種アンケート結果及び成果等については以下の通りである。

Ⅰ 社会との連携・社会貢献分野

１．地域の知の支援活動等への取組みについて

教員免許状更新講習の実施状況については，資料B-1-③-Aに示しており，講習の内容，方法，成果に関する事後評価アンケートを実施し，次年度への改善につなげている（資料B-1-③-B）。公開講座等については，各学部・研究科主催で毎年，さまざまなテーマを掲げて幅広い内容で実施されており（資料B-1-③-C），代表的なものを資料B-1-③-D～B-1-③-Fに示す。

前述（観点B-1-②）の理数系教員養成拠点構築事業では，本学と三重県教育委員会が連携し，理数系教員養成のための支援拠点の構築，プログラム開発・実施，研修会等を実施しており（資料B-1-③-G，資料B-1-③-H），アンケート結果においても肯定的な評価を得ている（資料B-1-③-Ｉ）。

２．地域への知的情報の提供への取組みについて

附属図書館では，毎年，附属図書館概要を発行し，図書館の利用状況等を明らかにしており（前掲資料B-1-②-F），学外者の利用状況については，資料B-1-③-Ｊに示す通りである。

３．地域の防災等に関する研究及び支援の取組みについて

前述（観点B-1-②）の通り，本学は，三重県地域で発生する自然災害に備え，地域圏の防災・減災活動の取組みの充実化や，地域の防災・減災活動を率先して行う人財の育成を行っており，取組み実績については，資料B-1-③-K，B-1-③-Ｌの通りである。また，修了者へのアンケート結果において，90%以上の修了生から肯定的な評価が得られている（B-1-③-M）。

Ⅱ 教育分野

１．地域の教育活動等への取組みについて

本学では，前述（観点B-1-②）の通り，高大連携事業として，サマーセミナー，東紀州講座，高校生向け公開授業などを開設しており，スーパーサイエンス・ハイスクールやサイエンス・パートナーシップ・プログラムにも積極的に協力している。これらの取組み状況・活動実績及び参加者等については，資料B-1-③-N～資料B-1-③-Ｓに示す。

Ⅲ 研究分野

１．地域の研究活動等への取組みについて

地域戦略センターでは，三重県や各種団体等への政策提言や地域産業の活性化を図るため，平成 23 年度より，「地域活性化プランスタートアップ促進業務」や「ＭＩＥ起業道場」等を実施し，また，大学発シンクタンクとして，地域振興，産業育成，環境政策，医療福祉政策などの幅広い戦略の立案を行い，百五銀行，百五経済研究所，野村證券，三重 TLO と連携し，地域の自治体に対しての総合的な政策提言や，産業育成・活性化のための企画を行っている。これらの取組により，地域戦略センターでは，地方自治体，民間企業等より多くの事業を受託している（資料Ｂ-1-③-Ｔ）。

また，地域イノベーション学研究科では，平成 24 年度に本研究科社会人学生が，地域発のイノベーティブ製品である「浸漬型膜分離装置（高性能浄化装置）」を開発した（資料Ｂ-1-③-Ｕ）。

Ⅳ 診療分野

１．医療活動を通した地域貢献の取組みについて

本学は，救命救急医療体制の充実化を図り，三重県の救急医療の中心的役割を担っており，三重県から補助金を受け入れ，救命救急にかかる事業を行っている（資料Ｂ-1-③-Ｖ）。また，平成 24 年２月より運用を開始したドクターヘリは，運航開始以来出動回数が増加しており，地域の要請に確実に応えている（前掲資料Ｂ-1-②-Ｔ）。

平成 25 年度には，文部科学省の「未来医療研究人材育成拠点形成事業」で「三重地域総合診療網の全国・世界発信」が採択され，５年間（平成 25～29 年度）で３億円規模の事業を行うことを計画している（前掲資料Ｂ-1-②-Ｖ）。

Ⅴ 環境分野

１．環境を通じた地域貢献の取組みについて

(1) 本学が平成 21 年度に加盟したユネスコスクールは，現在，本学の他に県内 15 の小中高校が加盟しており，今後さらに増加するよう積極的に支援している。また，平成 23 年度より毎年，三重大学ユネスコスクール研修会/シンポジウムを行っている（前掲別添資料Ｂ-1-②-5）。さらに，平成 26 年 11 月に愛知・名古屋で開催される「持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として，「ESD in 三重 2014」 の開催に向けた準備を行っている（資料Ｂ-1-③-W）。

環境・情報科学館では，年間を通して会議・シンポジウム等を積極的に開催している（資料Ｂ-1-③-Ｘ）。

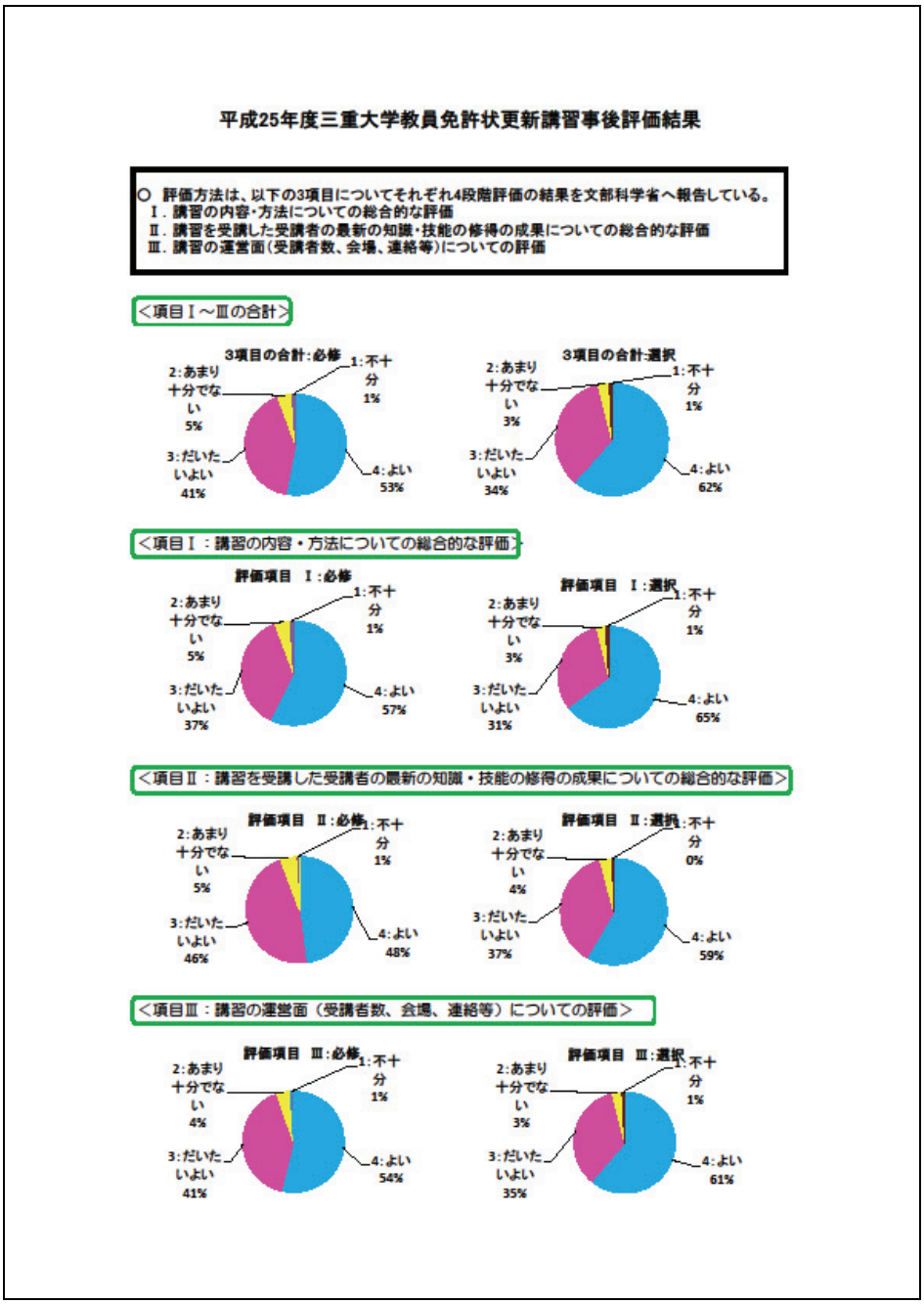
(2) 本学に隣接している町屋海岸において，環境 ISO 学生委員会が中心となり，地域住民とともに，海岸美化活動を行っている（前掲資料Ｂ-1-②-Ｘ）。また，近隣の小学校の児童を対象にした環境教育にも積極的に取組んでいる（前掲資料Ｂ-1-②-Ｙ）。

○資料B-1-③-A　教員免許状更新講習実績

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
●必修講習8回，選択講習108講習を開設（5～12月） ●受講者数 必修：763名 選択：2,082名	●必修講習8回，選択講習110講習を開設（7～11月） ●受講者数 必修：776名 選択：2,598名	●必修講習8回，選択講習116講習を開設（7～11月） ●受講者数 必修：787名 選択：2,888名	●必修講習8回，選択講習129講習を開設（5～11月） ●受講者数 必修：779名 選択：2,693名	●必修講習 8 回，選択講習113講習を開設（6～10月） ●受講者数 必修：776名 選択：2,319名

（出典：教務チーム提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-B　教員免許状更新講習アンケート結果



平成25年度三重大学教員免許状更新講習事後評価結果

○ 評価方法は、以下の3項目についてそれぞれ4段階評価の結果を文部科学省へ報告している。
Ⅰ．講習の内容・方法についての総合的な評価
Ⅱ．講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価
Ⅲ．講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価

＜項目Ⅰ～Ⅲの合計＞

＜項目Ⅰ：講習の内容・方法についての総合的な評価＞

＜項目Ⅱ：講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価＞

＜項目Ⅲ：講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価＞

（出典：教務チーム作成資料）

○資料B-1-③-C　平成25年度公開講座等実施実績

年度	総参加者数	総実施件数	実績一覧表（下記URL）
平成25年度	14,337名	145件	http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/pdf/h25koukaikoujisseki.pdf

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○資料B-1-③-D　人文学部：三重大学伊賀連携フィールド事業

上野商工会議所及び伊賀市の連携により「三重大学伊賀連携フィールド」を開設し，シンポジウムや市民講座の開催及び中心市街地活性化のための取組みを行うなど，伊賀地域の地域振興・生涯学習の充実・発展に貢献している。人文社会学研究科の「三重の文化と社会」は地域でのフィールドワーク実践を重視した授業科目で，その成果を現地報告会で発表するとともに，地域交流誌『TRIO』にも掲載し，地域への情報発信を行っている。

実施事業（平成24年度）	参加人数等
1．伊賀連携フィールド開設記念講演会&シンポジウムー「忍者」を活かした観光・まちづくりー（平成24年10月5日）	143名
2．市民講座「忍者・忍術学講座：忍者とは何か」（開催回数：6回）	401名
3．伊賀忍者古文書講座（開催回数：6回）	受講定員20名・事前申込み制
3．留学生異文化体験企画（平成24年9月13日）	留学生7名 日本人学生2名
4．留学生宿泊型文化体験企画（平成25年2月10日）	留学生22名 日本人学生6名
5．地域活性化事業「伊賀のまちづくり・地域活性化」学生アンケート調査（平成24年9月10日）	23名
6．伊賀連携フィールドを利用した日本文化体験学習	8名
7．公開トークイベント「史実の魅力，小説の魅力 ―忍者小説の新たな地平」（平成25年3月20日）	260名

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

※三重大学伊賀連携フィールドの活動は平成25年度分も含め以下のページで公開

http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/iga/

※地域交流誌『TRIO』　http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/trio/index.html

○資料B-1-③-E　工学研究科：夏休みものづくり・体験セミナー

http://www.tech.eng.mie-u.ac.jp/local/local-top/seminar5.html

工学研究科内の技術部が主催（津市教育委員会後援）し，主に中学1～3年生対象とした夏休みものづくり・体験セミナーを実施した。（募集人員30名程度）

・第5回夏休みものづくり・体験セミナー（平成25年度）

開催日	テーマ	参加人数
8月6日（火）	LEDを使った光るオブジェを作ろう！	10
8月21日（水）	液晶ってなんだろう？	5
8月21日（水）	最先端の電子顕微鏡に触れてみよう！	3
8月22日（木）	オリジナルプレートを作ってプログラム制御と機械加工を体験しよう！	5
8月22日（木）	材料試験を体験しよう	4

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○資料B-1-③-F　生物資源学部：特別ワークショップ「伊勢湾・三河湾スナメリ観察クルーズ」（鳥羽商船高等専門学校とも連携し実施）

鳥羽水族館がスナメリ飼育50周年を記念して企画されたもので，5月11日（土），12日（日）に実施。200名ほどの応募の中から選ばれた総勢16名の一般市民が参加した。

http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2013/05/post-592.html

○資料B-1-③-G　三重CST養成プログラム実施実績

	平成24年度	平成25年度
実施回数	17（24年度後期より実施）	40（前期：21，後期：19）
参加者数（※延べ人数）	204（24年度後期より実施）	527（前期：301，後期：226）

（出典：教務チーム提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-H　三重CST養成プログラム例（平成25年度前期）

開催日	プログラム	テーマ
4月27日	理科教材開発　1回目	ものの溶け方と質量保存
	理科教材開発　2回目	動物の体のつくり　―人体模型の活用―
5月25日	理科教材開発　3回目	春の植物観察に関する教材開発
	理科教材開発　4回目	メダカの発生
6月1日	理科教材開発　5回目	植物の体のつくりと働き―呼吸と光合成の実験法及び導管の観察―
	理科教材開発　6回目	岩石・化石の観察法
6月22日	理科室の運営と活用（Ⅱ種）	理科室運営・活用の基礎
6月29日	理科教材開発　7回目	物理実験におけるICT機器の活用
	生活の中の科学　1回目	味覚の科学
7月6日	理科教材開発　8回目	電気と磁石
	理科教材開発　9回目	天文分野におけるアナログ・デジタル・ＩＣＴ活用例
9月21日	中間報告会	

（出典：教務チーム提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-Ⅰ　事業アンケート結果の一例（第１回三重CSTシンポジウムアンケート）

http://cst.pj.mie-u.ac.jp/upload/20140227-140129.pdf（アンケート結果一覧）

	所属	本日の感想	ご意見，ご要望
1	小学校教員	さまざまなポスターを見ることができ，そこから実践例や応用例を知ることができた。今後の授業に役立てていきたい。　また，ＣＳＴの活動について改めて考えることができ，その中で解決すべき課題を見出すことができた。	ＣＳＴ養成プログラムを受講する中で，視野が広がっているのを感じています。プログラム内容はとても興味深く，学んだ内容を小学校の教育にどう活用していくか，どう応用できるか，考えることが楽しく，実際に活用し，手応えを感じています。また，学んだことを他の教員の方に広めて，「助かったわ。」「子どもが喜んでいた。」などの声を聞くこともでき，理科授業の支援をすることもできています。
2	〃	今までの学びについて，多方面の方々に知っていただけたことに感謝します。自分，そして共に学んだ方たちも，色々と迷いながら今日まで来ましたが，学んできたことが活きることを確認することができたと思います。このように交流する場は大切であると思いました。	内容がかぶるものが多数あるように思います。チームにまとめる，テーマごとに分担する等の分担をした方が，もっとより効果的なシンポジウムになるのではないかと感じました。準備物は事前に詳しく指示していただけるとありがたく思います。
3	中学校教員	今日のシンポジウムを節目として，ＣＳＴに向けた取り組みをさらにがんばっていこうと思いました。ポスター発表では，様々な意見を頂き，自分の次の課題も見えてきました。	ＣＳＴの認定後も，スキルアップのための場を作っていただきたいです。
4	〃	今後の活動方向が少し見えてきた気がした。日々の授業をわくにはめず，いろいろな方法でこれからも教材研究していきたいと思いました。	ポスターの内容，今日の内容，動きを事前に知り，分担していくと内容がまとまり充実すると思いました。

5	〃	発表も多い切り口で非常に参考になりました。ＩＣＴ機器の充実が進む中，真の部分として，実物重視の支援としてＩＣＴ活用という面で，今回学んだことを実践していきたいです。今回の発表者としてパワーポイントは作りました。しかし，作らなくていいとのことでやめました。評価していただいた方のご指摘の通りだと思いました。	・役割分担で効率よく配置するといいです。 ・まだ第一歩ということで仕方ないこともありますが，それぞれのブースにも説明をする教員配置をした方がいいと思います。
6	大学教職員	貴重な機会に参加させていただき，ありがとうございました。とてもバランスのよいシンポジウムであったと感じます。受講生による発表や，ここまでの道のりの大変さだけが語られるというのではなく，全体像の説明，それらが可能になった経緯，立場の異なる方々からのそれぞれの思いや学びetc…特に，普段あまりお聞きする機会のない，各市町の規模に合わせた教委独自の動き方，進め方，広げ方を模索されているという現状を知ることができたのが，個人的には発見でした。子どもたちの学びを支え，ひらき，ゆたかにしていくのに，当の先生方自身が同僚や同志とともに学ぶ楽しさや，新たに出会う，出会い直す刺激，歓びを手にされていることが，(数人の先生方もおっしゃっていましたが) 子どもたちにダイレクトに伝わりつながっていくことであるのだなぁと改めて考えさせられました。	理科が専門でもなく，得意でもない立場からですが…理科好きな子どもを育てたい，理科離れをなくしたい，という目的にとどまらず，小・中いずれにおいても，理科に強い“ＣＳＴ”（教員）が各校にいることで，他教科への影響や接続，連携についても気になります。（だいぶ先の課題かとは思います）理科だけで，“理科につよい子ども”が育つのではなく，様々な教科や世界との連関で，全体で育まれていくといいな…と思います。他教科とのコラボや，ＣＳＴの企画する専門性を活かした総合的なプログラムなどができていったらすてきだなぁと期待しております。本当にありがとうございました。
7	〃	先生方の発表で，ＣＳＴ事業が活きていることがよく理解できた。	先生方とのネットワークはできかけていることは感じられた。教育学部の学生と先生との交流は強化が必要と感じられた。
8	〃	大学として事業展開に取り組んでおられると感じました。またシンポジウムもそれぞれの立場からの報告があり，工夫あるプログラムが構成されていると感じました。ポスター・ワークショップ発表の場面は，ＣＳＴ中心の運営がなされるとさらに充実するのではないかと思いました。	養成したＣＳＴに対するフォローアップ，活用場面の設定等，さらに検討をすすめていく必要があると思いました。関係教育員会職員，所属校長の参加（シンポジウム等への）をさらに呼びかけていく必要があると感じました。ＣＳＴには，多様な授業展開技術をさらに身につけるとともに，他へ還元する伝える力（プレゼンテーション力）を身につけてほしいと願います。
9	その他（企業　）	今日に至るまでの企画，立案，運営，今後の課題について，非常に分かりやすい内容で，大変勉強になりました。発表者，報告者，助言者の熱意がすごく伝わってきました。	今後，ＣＳＴがより認知されていくよう，企業としても発信できるよう取り組んでいきたいと思います。
10	その他	・ＣＳＴの受講者，教員，教育委員会が一同に会す場は，大切だと思います。・このような場で，情報交換を行うことで，縦・横のネットワークができ，ＣＳＴ事業がより盛り上がっていくことを期待します。	県内の理科の先生全員が参加できるといいイベントになると思います。

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○前掲資料Ｂ-1-②-Ｆ　三重大学附属図書館概要（2013）

http://www.lib.mie-u.ac.jp/about_library/outline/outline2013.pdf

○資料Ｂ-1-③-Ｊ

・附属図書館学外者利用状況

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
登録者数	567	534	489	297	440
入館者数	12,879	11,228	11,505	5,237	6,494
貸出冊数	3,467	3,411	3,412	2,111	2,846

（出典：附属図書館概要（2013）を基に作成）

○資料B-1-③-K　地域防災に係る主な取組状況

事業等名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
みえ防災コーディネーター育成講座	●7/11-11/28（全13回）で32講座を実施 ●認定者数：67名	●7/3-11/13（全13回）で32講座を実施 ●認定者数：169名	●6/24-11/11（全13回）で32講座を実施 ●認定者数：81名	●7/28-12/5（全13回）で32講座を実施 ●認定者数：53名 ●25年度は女性限定で実施
その他防災研修事業		●みえ防災コーディネーターフォローアップ研修を実施（県内各地で2回実施） ●自主防災組織リーダー研修を実施（津，伊勢の2地区で実施）	●みえ防災コーディネータースキルアップ研修を実施（応急手当普及員講座，ファシリテーター養成講座，防災トーク能力向上講座　等）（津，伊勢，名張地区で実施） ●自主防災組織リーダー研修（県内9地区で実施）	●みえ防災コーディネータースキルアップ研修を実施（津，松阪・伊勢，尾鷲・熊野地域で実施） ●女性を中心とした自主リーダー人材育成講座（津，松阪・伊勢，尾鷲・熊野地域で実施）

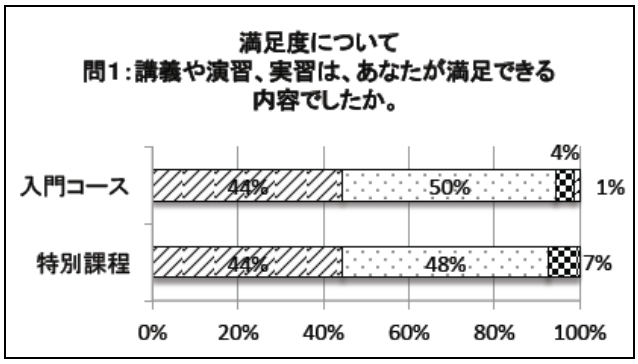
（出典：地域圏防災・減災研究センター提供資料を基に作成）

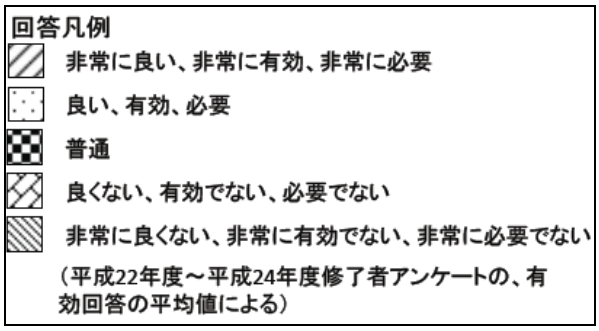
○資料B-1-③-L　三重さきもり塾卒塾者数（現：みえ防災塾）

	H22年度（第1期）	H23年度（第2期）	H24年度（第3期）	H25年度（第4期）
さきもり入門コース	46名	48名	48名	40名
さきもりコース（特別課程）	17名	12名	14名	12名
計	63名	60名	62名	52名

（出典：地域圏防災・減災研究センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-M　三重さきもり塾卒塾者へのアンケート結果





（出典：地域圏防災・減災研究センター作成資料）

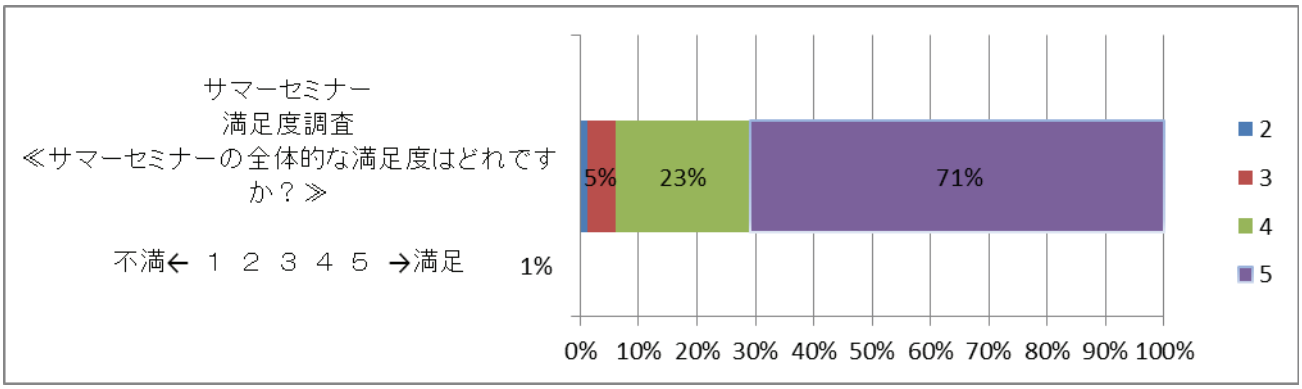
○資料B-1-③-N　平成25年度高大連携サマーセミナー（7月23日（火）～8月13日（火））

開催日	テーマ	参加人数	実施部局
8月6日	日本の社会保障を考える	21	人文学部
8月9日	歌舞伎	16	人文学部
8月13日	日本書誌学	22	人文学部
7月24日	二枚貝の進化と多様性を考える	9	教育学部
7月25～27日	天体画像解析入門	37	教育学部
7月30日	表現を生かした教育の展開	54	教育学部

7 月 23 日，30 日，8 月 6 日	「シミュレーションを用いた体験型医学医療教育－生理，解剖から，最新外科手術まで」	119	医学系研究科
7 月 29 日，31 日，8 月 1 日または7，8 日	口腔がんに対する遺伝子治療の基礎研究	14	医学系研究科
8 月 5，6 日	骨と関節の構造と働き	24	医学系研究科
7 月 24～26 日	簡易ロボットの仕組みと動かし方	15	工学研究科
8 月 6 日	生物や無生物が発生する音を分析する	15	生物資源学研究科

（出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成）

○資料Ｂ-1-③-Ｏ　平成 25 年度高大連携サマーセミナーアンケート結果



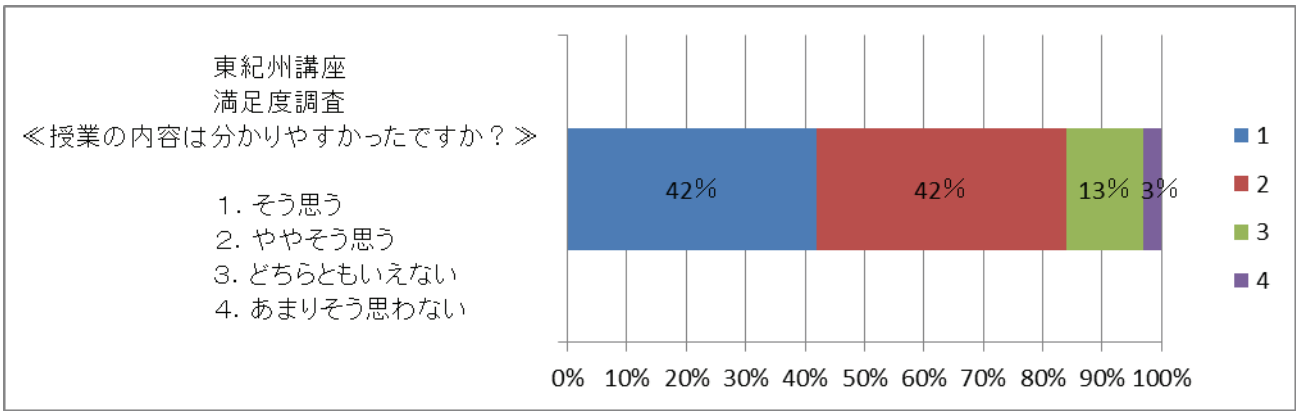
（出典：高等教育創造開発センター作成資料）

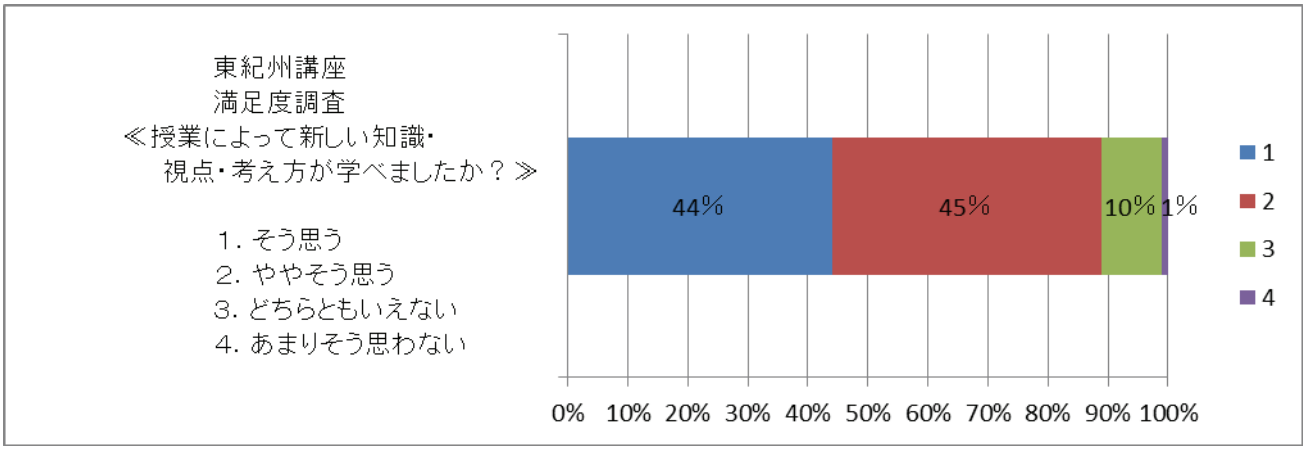
○資料Ｂ-1-③-Ｐ　東紀州講座実施実績

開催日	開催校	テーマ	参加人数	担当部局
6 月 15 日	尾鷲高校	臨床医学者への道：A Roadmap to Physician-Scientists	36	医学部
7 月 6 日	木本高校	江戸時代の旅文化と熊野古道	43	人文学部
7 月 20 日	尾鷲高校	古代紀伊国と伊勢湾・熊野灘	38	人文学部
7 月 27 日	木本高校	過疎問題と地域の活性化	29	人文学部
7 月 31 日	尾鷲高校	化学とサステイナビリティ	43	工学研究科
8 月 1 日	木本高校	巨大地震・津波災害に備える	64	工学研究科
8 月 5 日	尾鷲高校	ＤＮＡと生命科学，がんとは？iPS 細胞とは？	53	医学系研究科
8 月 6 日	木本高校	環境にクリーンな技術の研究開発の紹介	43	工学研究科

（出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-Q　東紀州講座アンケート結果





（出典：高等教育創造開発センター作成資料）

○資料B-1-③-R　平成25年度スーパーサイエンス・ハイスクール実施実績

高等学校名	開催日	内容	参加人数	担当部局
津高等学校	7月30日	スーパーサイエンス探求活動Ⅰ	6	生物資源学研究科
	8月1日	スーパーサイエンス探求活動Ⅰ	12	医学系研究科
	8月8日	スーパーサイエンス探求活動Ⅰ	5	工学研究科
	5月13日	スーパーサイエンス研究活動　生命科学1	8	医学系研究科
	5月20日	スーパーサイエンス研究活動　生命科学2	8	医学系研究科
	5月29日	スーパーサイエンス研究活動　生命科学3	8	医学系研究科
	6月13日	スーパーサイエンス研究活動　生命科学4	8	医学系研究科
	6月24日	スーパーサイエンス研究活動　生命科学5	8	医学系研究科
伊勢高等学校	5月22日	講義「効果的なプレゼンテーション～ポスター発表について」	104	教育学部
	6月8日	大学研究室訪問・講義+実習	24	工学研究科
	6月16日	大学研究室訪問・講義+実習	22	教育学部
	6月16日	大学研究室訪問・講義+実習	21	医学系研究科
	7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	25	人文学部
	7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	97	教育学部

	7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	35	医学系研究科
	7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	47	生物資源学研究科
	7月5日	音楽系クラブ特別指導	40	教育学部
	7月5日	SSC 数学部門特別指導	15	教育学部
	7月13日	大学研究室訪問・講義+実習	25	生物資源学研究科
	7月28日～7月29日	「勢水丸」乗船研修・講義+実習	32	生物資源学研究科
	8月5日	「中央構造線」フィールドワーク・講義+実習	20	生物資源学研究科
	12月14日	大学研究室訪問・講義+実習	4	人文学部
	12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	29	教育学部
	12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	22	医学系研究科
	12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	20	工学研究科
	12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	7	生物資源学研究科
	3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	25	教育学部
	3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	16	医学系研究科
	3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	11	工学研究科
	3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	17	生物資源学研究科
	通年	「課題研究」の指導	83	全学部研究科

（出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-S　平成25年度サイエンス･パートナーシップ・プロジェクト

高等学校名	開催日	内容	参加人数	担当部局
津西高等学校	7月5日	太陽電池について（事前学習）	25	工学研究科
	7月12日	燃料電池について（事前学習）	25	
	8月2日	太陽電池について（三重大学にて実習）	13	
	8月6日		12	
	8月6日	燃料電池について（三重大学にて実習）	25	
	8月7日	風力発電について（三重大学にて実習）	14	
	9月26日	太陽電池について（事後学習）	25	
	9月26日	燃料電池について（事後学習）	25	
	12月16日	太陽電池について（学習発表会）	24	
		太陽電池について（学習発表会）	25	

（出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-T　地域戦略センターが受託した事業の相手別件数・金額について

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
地方自治体等	7件	10 件	9 件
民間企業等	3件	2件	3件
計	10 件	12 件	12 件
受託額	51,600 千円	52,180 千円	47,877 千円

（出典：地域戦略センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-U　地域イノベーション学研究科社会人学生が研究開発した製品

膜分離装置（NEW-X1）の概要及び特徴

メンテナンスの経験を活かし、ユーザー視点に基づいて、新しい浸漬型膜分離装置を開発しました。

性能（膜面積、ろ過性能）・耐久性・保守性の向上により小型化・低動力化を可能とし、コストダウンを実現します。

汚泥再生処理・合併浄化槽・集落排水処理・産業廃水処理、さらには中水や汚泥濃縮の分野まで、あらゆる固液分離に威力を発揮します。

コストダウン
膜枚数を少なくすることで、水槽・膜洗浄ブロワ等の関連設備のイニシャルコストを低減。大幅なコストダウンが可能です。また、ブロワ動力などのランニングコストも低減。CO2削減に寄与します。

新機能
ツインノズル
ノズルを二カ所に設けました。これによりろ過抵抗を抑え、高いろ過性能を実現しました。

チューブ
曲げ応力に対応したカーブ設計で長めのチューブを採用。ノズルとの接続部が硬化してもそこを切り取って再利用できます。

安全設計
ハウジングは、耐久性に優れたSUS製を採用。衝撃に強く、据え付け・維持管理時の負担を軽減できます。

（出典：地域イノベーション学研究科作成資料）

○資料B-1-③-V　救命救急関係補助金受入実績　（単位：千円）

補助事業名等		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医療提供体制推進事業補助金	救命救急センター運営事業	69,530	78,431	74,494	63,628
	ドクターヘリ運航事業		38,223	211,765	211,765
	受入困難事案患者受入医療機関支援事業		3,551	3,186	2,911
救命救急センター設備事業補助金			92,400		

（出典：附属病院提供資料を基に作成）

○資料B-1-③-W　ESD in 三重2014　http://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/local/clean.html

○資料Ｂ-1-③- Ｘ　環境・情報科学館におけるイベント・会議等の開催状況（平成 25 年度）

開催日	イベント・会議名称等	実施内容等
6 月 6 日（木）	「グリーンカーテン」の設置運動	夏場の暑い時期の省エネ対策として，太陽光遮断による冷却効果を狙って，ゴーヤによる「グリーンカーテン」の設置運動を実施した。「世界一の環境先進大学」を目指すクール・アクションの一環として実施。
6 月 19 日（水）	平成 25 年度省エネ及び環境マネジメント研修会	クール・アクション活動を教職員一同と取り組むために，節電の必要性と蒸し暑い夏を快適に過ごすためのワークスタイルの変革について研修が行われた。
6 月 21 日（金），6 月 24 日（月）	第 1 回・第 2 回環境学習	北立誠小学校の学生に，「3R（Reduce，Reuse，Recycle）」をテーマに環境学習を実施。
7 月 5 日（金）	「七夕 ECO ナイト～消して MIE るエコな光～」	学生・教職員・地域の方々と節電について考えるイベントとして，キャンドルナイトを実施。
9 月 4 日（水）	「環境報告書 2013　環境座談会」	「三重大学環境報告書 2013」の作成に伴い開催。25 年度は，「スマートキャンパス／スマートコミュニティの創出」について，学内外の有識者を交えて座談会を実施。
9 月 5 日（木），9 月 6 日（金）	第 3 回・第 4 回環境学習	北立誠小学校の学生に，「自然エネルギー」をテーマに環境学習を実施。
2 月 12 日（水）～2 月 28 日（金）	特別展示「志摩の海女資料展」	海女文化が全国で初めて県の文化財に指定されたことに伴い（三重県無形民俗文化財），本学と友好協力協定を結んでいる海の博物館，志摩市歴史民俗資料館及び川口祐二（三重大学客員教授）氏の全面的な協力を得て開催。
2 月 15 日（土）	三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム 2013	県内ユネスコスクール加盟の学校の代表者による事例報告や三重大学ユネスコスクール学生委員会・国際交流センター留学生による活動報告が行われ，ESD（持続可能な開発のための教育）の発展を考えるシンポジウムとして実施された。
3 月 15 日（土）	平成 25 年度エネルギー環境教育成果発表会	本学と中部電力株式会社が協働で事業として行っており，平成 19 年度より毎年成果発表会を行っている。中部電力から，エネルギー供給者としての取組みや次世代へのエネルギー環境教育への期待が述べられ，本学からは，「大学生及び地域の環境リーダーを対象としたエネルギー環境教育」の成果報告等がされた。

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

【分析結果とその根拠理由】

シンポジウムや研修会等各種事業においては学内外から多くの参加者数の実績があり，例えば，三重さきもり塾，高大連携サマーセミナー，東紀州講座などアンケートにおいても参加者から肯定的な評価が得られていることが確認できる。

以上のことから，活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して，活動の成果は上がっていると判断する。

観点Ｂ－１－④：　改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

高大連携事業等の実施状況については，高等教育創造開発センターの７部門（平成 25 年度末時点）の部門長が集まる部門長会議や，高大連携推進専門委員会において報告され，次年度への改善策等が検討されている。具体的には，高大連携をさらに充実・発展させるために，三重県内の遠隔地等の高校が本学の授業への参加を可能とする取組みとして，新たに本学と当該高校をリアルタイムでつなぐ遠隔授業の仕組みを検討している。

さらに，公開講座については，教育を担当する理事をトップとする全学的な組織として公開講座実施委員会を組織し，公開講座全般にかかる企画・運営・検証を行っている（年２回開催）（別添資料Ｂ-1-④-1）。

これら公開講座，高大連携事業等の実施状況は，教務委員会（現：教育会議）にも報告され，当会議の指摘事

項等についても次年度への改善につなげている（別添資料B-1-④-2）。

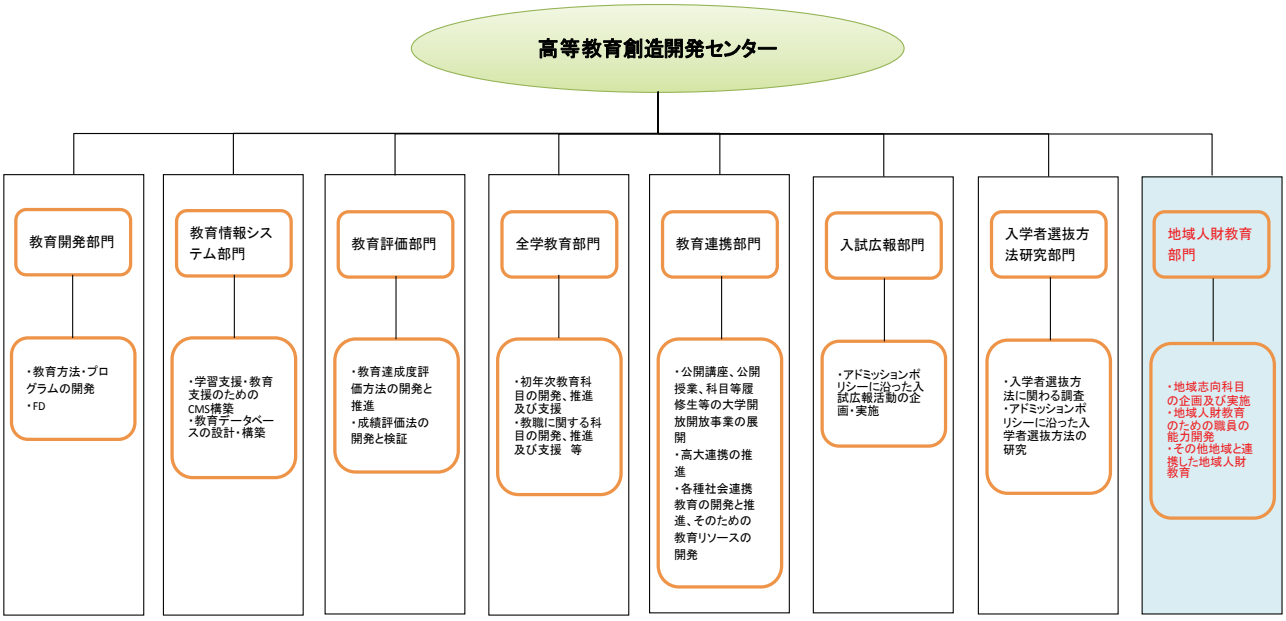
また，平成26年度には，高等教育創造開発センター内に地域人財教育部門を新設し，「地域志向の教育・研究」をさらに発展させる試みをスタートさせた（資料B-1-④-A）。

地域戦略センターでは，学長を議長とする地域戦略センター幹部会議で活動方針等の大局的な事項が決定され，具体的な活動内容については，地域戦略センター連絡調整会議で取り決めている。地域戦略センター連絡調整会議において，地域戦略センターの活動にかかる実績の報告及び以後の改善策等が議論され，地域戦略センター幹部会議に報告される体制をとっている。いずれの会議も2か月に1度のペースで実施しており，本学の担当理事・副学長をはじめとする本学担当者に加え，三重県，野村證券，百五銀行などの学外有識者で構成されている（資料B-1-④-B）。

また，今後の取組みとして，教育・研究を担当する5学部・6 研究科と本センターを有効に連動させることで，「地域再生・活性化の核となる大学」としての機能をさらに強化することを目指す。

各学部等においては，公開講座，出前授業等の実施にあたり，各学部内に企画会議や委員会等が置かれ，毎年検証・改善を行いつつ次年度の活動につなげている。

○資料B-1-④-A　高等教育創造開発センター組織図（平成26年4月1日現在）



（出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-④-B　地域戦略センター 概要・組織　http://rasc-mie.jp/organization

○別添資料B-1-④-1　平成25年度公開講座実施委員会事項書（第1回，第2回）
○別添資料B-1-④-2　平成25年度教務委員会（現：教育会議）報告事項

【分析結果とその根拠理由】

高大連携事業や公開講座等については，高等教育創造開発センター部門長会議，高大連携推進専門委員会，公開講座実施委員会，教育会議（旧：教務委員会）等において，各事業に関する企画，検証，報告等が行われている。地域戦略センターの活動については，地域戦略センター幹部会議や地域戦略センター連絡調整会議において，方針等の決定，各事業の検証・報告が行われている。

また，各学部等においても，各学部内に企画会議や委員会等が置かれ，各学部の事業について検証が行われている。

以上のことから，大学の地域貢献活動に関する改善のための取組が行われていると判断する。

（２）目的の達成状況の判断

本学の「基本的な目標，基本理念及び社会貢献に関する目的」の実現に向けて，教育・研究・診療等それぞれの分野で，定められた計画に基づいて適切に地域貢献活動が行われており，具体的な実績及び成果等が得られ，さらに，各種事業にかかるアンケート調査において多くの参加者から肯定的な評価が得られている。また，組織的な検証体制を整備している。

以上のことから，目的の達成状況が良好であると判断する。

（３）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・高校生が自発的に大学で勉強できる機会を提供するために，サマーセミナー，東紀州講座，高校生向け公開授業などの開設，県内高校によるスーパーサイエンス･ハイスクールやサイエンス･パートナーシップ・プロジェクトへの協力，オープンキャンパスや出前授業などの高大連携の取組を実施するとともに，地域の高校生が本学の講義・演習･実験･実習に参加できる機会の提供を推進している。

・平成 24 年度に，本学と三重県教育委員会が連携し，理数系教員養成プログラムの開発・実施や，地域の理科教育における拠点の構築・活用などを通じて地域の理科教育において中核的な役割を担う教員を養成する事業として，科学技術振興機構より理数系教員養成拠点構築事業を受入れた。

・平成 26 年２月に，三重県総合博物館との間で相互協力協定を締結し，三重の自然と歴史・文化などの地域資源を活かし，文化振興と地域づくりに取組んでいる。

・社会連携研究センター内に「地域圏防災・減災研究センター」を設置し，三重地域圏の産学官民連携による防災・減災活動の連携による推進体制を強化した。また，平成 26 年４月には，地域防災に携わる人財の育成や研究成果の創出などについて，三重県と共同で取り組む全国初の組織として，「三重県・三重大学　みえ防災・減災センター」を設置した。

・社会連携研究センター内に「地域戦略センター」を設置し，地方自治体と連携して地域が抱える産業育成，地域振興，観光政策，環境政策等の諸問題に対する政策提言・提案等を行っており，大学が蓄積する知の活用によって地域が抱える課題の解決策を提供する総合シンクタンクの役割を果たすことを目指している。

・大学全体として地域貢献活動の創造及び推進を目的に，平成 20 年度より，本学職員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動」として毎年公募を行い，選定し，必要な経費を助成支援している。

・平成 21 年４月に，研究成果等の社会への還元を目的に，社会連携を大学院教育に取り入れた全国初の独立研究科として「地域イノベーション学研究科」を設置し，地方産業界が求める即戦力型人財の育成に取り組んでいる。平成 24 年度には本研究科社会人学生が，地域発のイノベーティブ製品である「浸漬型膜分離装置（高性能浄化装置）」を開発するなど，地域発のイノベーションを創出する高度な研究成果が出ている。

・平成 24 年２月に，ドクターヘリの運用を開始し，救急現場から迅速かつ高度な医療活動を行うことにより尊い人命の救助につなげる等，地域の要請に応えている。

・地域医療の支援について，実際の診療などを通じ，医療保健体制に関する教育・研究を行い，最適な地域医療

体制の確立を目指すことを目的として，三重県各地域に地域医療学講座を設置している。さらに，平成 25 年度には，文部科学省の「未来医療研究人材育成拠点形成事業」において「三重地域総合診療網の全国・世界発信」が採択され（５年間３億円余），さらなる地域医療学講座の設置や地域医療活性化の基礎的教育研究システムの構築を進めている。

・平成 24 年度に，本学の自主財源で「環境・情報科学館」を整備し，本学教職員だけでなく地域住民に対し，環境に関する取組や環境成果を分かりやすく展示し，環境を学べるコーナーや交流スペースを設け，地域との交流・協働の場を提供している。また，当館において，環境団体や企業，自治体などと連携して環境教育・研究等の情報発信を行っている。

・全国の国立大学では数少ない「海に近い大学」として，海の環境を守るべく学生（環境 ISO 委員会）が中心となり，地域住民とともに，年５回，ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っている。また，当該活動と並んで，近隣の小学校の児童を対象に，環境問題等について学習する機会を設け，環境に対する意識の向上を図っている。

【改善を要する点】

特になし

Ⅳ　選択評価事項Ｃ　教育の国際化の状況

１　選択評価事項Ｃ　「教育の国際化の状況」に係る目的

（1）基本的な目標及び国際化に関する目的

本学は，基本的な目標として「三重の力を世界へ：地域に根ざし，世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」を掲げ，国際化の目的として「三重大学は，国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し，大学の国際化を目指す」と設定している。

（2）法人における中期目標

本学の基本的な目標及び国際化の目的を達成すべく，中期目標において，国際化に関する目標として以下のとおり定めている。

○中期目標（抜粋）

国際化に関する目標

１（学内国際化）

国際交流イベントなどによって，国際感覚が自然に身につきやすい学内の国際化を進める。

２（外国人受入れと学生，教職員の派遣）

留学生，外国人研究者の受入れ体制及び学生，教職員の海外派遣制度を整備し，充実を図る。

３（地域国際化支援）

地域の国際化・国際交流の発展を支援する。

（3）国際戦略本部及び国際交流センター

また，本学の国際交流・国際協力のさらなる拡大と活性化を図るため，「国際戦略本部」「国際交流センター」を整備し，「学生総合支援センター」と連携しながら，それぞれ以下の目的に基づき，国際化に係る活動に取り組んでいる。

【国際戦略本部】

本学の国際交流の基本方針を策定することを目的とする。

【国際交流センター】

国際交流に関する基本方針に基づき，国際化推進事業及び国際教育・研究活動を通じて，国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し，三重大学及び地域の国際化に寄与することを目的とする。

【学生総合支援センター】

三重大学の学生の修学，就職及び生活等への支援体制を整備し，充実した学生生活の実現を図ることを目的とする。

２　選択評価事項Ｃ「教育の国際化の状況」の自己評価

（１）観点ごとの分析

観点Ｃ－１－①：　大学の教育の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

【観点に係る状況】

大学の国際化に関する目的を達成するため，中期目標において「国際化に関する目標」を設定し，この目標を達成するための措置として６年間の中期計画を立て，事業年度毎の具体的活動内容を年度計画として策定している。これらの目的，中期目標，中期計画，年度計画は，本学ウェブサイトに掲載し，広く公表している。（資料Ｃ－１－①－Ａ，資料Ｃ－１－①－Ｂ）

さらに，大学の国際化の目的を踏まえ，学長のリーダーシップの下に組織された国際戦略本部（本部長・国際交流担当理事）が，大学の国際連携・国際的学術活動の方向性や国際化戦略を決定し，関連部署である国際交流センター，留学生支援室などと協力して，国際領域での教育，研究，社会貢献に関する計画・方策を提示している。（別添資料Ｃ－１－①－１）

本学の国際的活動の実施主体となる国際交流センターでは，本学の国際化に係る目的を実現するため，①海外語学研修，②国際教育コースの設置，③海外での国際理解研修，④国際インターンシッププログラム，⑤国際シンポジウムの開催，⑥ダブルディグリープログラムの６つのプログラムを支援し，その内容を公表している。（資料Ｃ－１－①－Ｃ）

これらの本学の国際戦略，教育・研究の国際化の目的，実践的な取組は，「三重大学国際交流センター年報」や本学広報誌に掲載するとともに，その内容をウェブサイト上で広く公開している。このほか，オープンキャンパスや入試説明会の機会を通して，多くの高校生，高校教員，保護者に国際化の目的等を周知している。（資料Ｃ－１－①－Ｄ，別添資料Ｃ－１－①－２）

資料Ｃ－１－①－Ａ：三重大学中期計画（抜粋）

（２）国際化に関する目標を達成するための措置

（①学内国際化）

１　インターネットを活用した遠隔授業等により海外大学等との国際交流活動を充実させる。

２　国際交流週間，外国人研究者による講演，多文化社会関係のシンポジウムなど三重大学の学生，教職員の国際感覚の涵養につながるイベントを推進する。

（②外国人受入れと学生，教職員の派遣）

１　文書，ウェブの英語併記化や共用情報端末の多言語化など外国人留学生・研究者受入れの環境・支援体制の整備を進め，受入れ数を増大させる。

２　学生の国際性の涵養を図るため，ダブルディグリープログラム，３大学ジョイントセミナー，海外インターンシッププログラムなどの学生の派遣・受入れプログラムを充実させる。また，名古屋大学と愛知教育大学等と連携してグローバル人材の育成に取り組む。

３　三重大学独自の教職員の海外派遣制度を整備し，教職員全体の国際性の涵養を図る。

(③地域国際化支援)

１ それぞれの文化の特性を尊重しつつも全体として融合した優れた多文化社会の共創に向けて，多文化に関わる学内の研究成果を活用したシンポジウムや公開講座の開催を推進する。

２ 地域の国際化・国際交流に資する留学生等による多文化交流プログラムを推進する。

資料Ｃ－１－①－Ｂ：三重大学年度計画（抜粋）

（２）国際化に関する目標を達成するための措置

(①学内国際化)

１・ＪＩＣＡ等と連携してアジアパシフィック・アフリカ地域との交流を推進し，ＩＣＴを利用した海外との交流を充実するとともに，国際交流活動を検証し，改善策を策定する。

２・学生，教職員の国際感覚涵養のため，国際交流週間及び国際シンポジウム等のイベントを更に充実するとともに，開催したイベントを検証し，改善策を策定する。

(②外国人受入れと学生，教職員の派遣)

１・学内文書及びウェブページの多言語化及び本学独自の奨学制度を活用し，外国人留学生・研究者の受け入れ環境を更に充実する。

２・本学独自の国際交流助成制度を活用して，派遣・受入プログラムの多様化を図り，充実するとともに「国立大学改革強化推進事業」により大学間連携を活用したグローバル人材の育成に取り組む。

３・教職員の国際性の涵養を図るため，協定校との教職員の派遣・受入を推進するとともに，海外派遣制度を検証し，改善策を策定する。

(③地域国際化支援)

１・地域の国際化・国際交流を支援するため，各種国際交流団体と連携した日本語教育等の支援及び国際交流活動等を充実する。

２・地域の国際化・国際交流を支援するため，教育機関等と連携した多文化交流プログラムに教員や留学生等を派遣するとともに，プログラムを検証し，改善策を策定する。

資料Ｃ－１－①－Ａ：三重大学中期計画

http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409_cyukikeikaku.pdf

資料Ｃ－１－①－Ｂ：三重大学年度計画

http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409_h25nendokeikaku.pdf

資料Ｃ－１－①－Ｃ：グローバル人財を育成するための６つのプログラム

http://www.cie.mie-u.ac.jp/about/history/index.html

資料Ｃ－１－①－Ｄ：国際交流センター年報

http://www.cie.mie-u.ac.jp/publications/post-198.html

別添資料Ｃ－１－①－１：今後２年間の国際交流の方針

別添資料Ｃ－１－①－２：国際交流（2013 年度国立大学法人三重大学概要　p19）

【分析結果とその根拠理由】

本学の基本的な目標及び国際化の目的を達成すべく，中期目標において「国際化に関する目標」が明確に示されており，その目標を達成するための具体的な措置として，中期計画および年度計画が定められている。さらに，大学の国際化の目的を踏まえ，国際戦略本部等において大学の国際連携・国際的学術活動の方向性や国際化戦略を決定している。これらの国際化の方針は，本学広報誌やウェブサイト上で広く公表するとともに，オープンキャンパスや入試説明会の機会を通して，多くの高校生，高校教員，保護者に周知されている。

以上のことから，大学の国際化の目的に照らして，目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているとともに，これらの目的と計画，具体的方針が適切に公表されていると判断する。

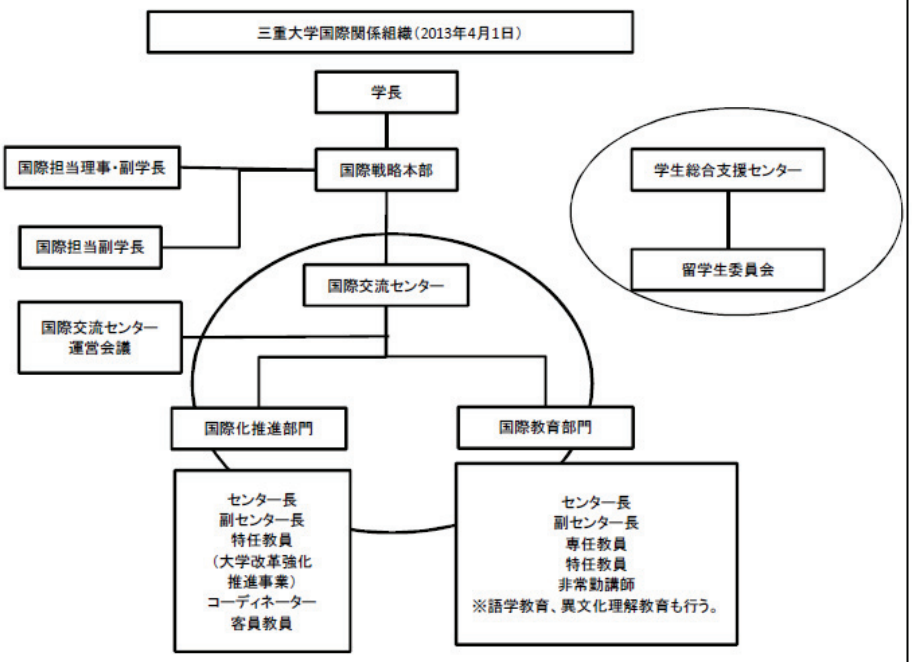
観点Ｃ－１－②：　計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

本学の中期目標に定められた“大学の国際化”に向けた方針は，その目標を達成するための中期計画，年度計画のなかで具体化されている。中期目標では，「学内国際化」「外国人受入れと学生，教職員の派遣」「地域国際化支援」を掲げ，これらの目標の達成に向けて，中期計画，年度計画に基づき，組織改革，教員能力の向上，数値目標の設定，海外拠点形成，新規教育プログラムの開発，適切な評価に基づく PDCA サイクルの実践などに取り組んでいる。

本学では，国際化推進組織として国際交流センターを設置し，また，学生支援を担当する学生総合支援センターが留学生への支援を行うとともに事務組織として留学生支援室を設置している（別添資料Ｃ－１－②―１，別添資料Ｃ－１－②―２）。国際交流センターが海外大学との交流，国際化に関する国内機関・地域との連携を担当し，留学生支援室が海外からの留学生及び海外へ派遣する学生への支援を担当している。分業化により，業務の効率化が図られる一方で，大学としての国際化・留学生受入れの方針が不統一になることが危惧されたため，これを回避するため，2013 年４月に学長直轄の組織として「国際戦略本部」を設置した（別添資料Ｃ－１－②―３）。さらに，国際交流センター内の部門を改組し，国際化推進部門と国際教育部門を設置した。国際化推進部門には，JICA からの出向教員を採用しており，アジア・アフリカの開発途上国・新興国を重点地域として交流の促進を図る体制を整備する計画を進めている。また，国際教育部門には，語学教育・異文化理解教育を担当する教員を重点的に配置した（資料Ｃ－１－②－Ａ）。

資料Ｃ－１－②－Ａ：三重大学国際交流組織図



（出典：国際交流チーム作成資料）

①「学内国際化」に係る取組

中期目標の一つである「学内国際化」に向けては，外国人教員雇用拡大のための雇用経費支援，外国語ができる常勤職員の配置を行った。

授業改善による「学内国際化」への取組みとして，「英語で授業をする」をテーマにしたFD活動やＩＣＴを利用した海外との遠隔授業の実施，後述の英語による国際教育科目の設置などを行っている（資料Ｃ－１－②－Ｂ）。工学研究科では，国際化を推進する「国際教育科目」を設置するとともに「工学研究科国際シンポジウム」を開催し，英語による研究成果発表を行わせる取組みを開始し，医学部医学科では専門教育科目での語学担当外国人教員を雇用し，６年間を通じて実践的医学英語教育を行う体制を整備した。地域イノベーション学研究科では，学生が英語で国際的な情報発信する場として「地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」を実施しており，海外の大学教員を招待し，国際的な交流を行っている。

また，毎年12月には，三重大学国際交流週間を実施し，学生，教職員の国際感覚の涵養につなげている（別添資料Ｃ－１－②－４）。

②「外国人受入れと学生，教職員の派遣」に係る取組

第二の中期目標である「外国人受入れと学生，教職員の派遣」については，学術交流大学の拡充や3大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムの実施（別添資料Ｃ－１－②－５），海外拠点「三重大学教育研究センター」の開設などにより，教員・学生の派遣・受入基盤の整備を進めている（資料Ｃ－１－②－Ｃ）。また，海外からの留学生受け入れ拡充に向けて，GPAによる単位の実質化，10月入学を実施している。

学生派遣・受入のための具体的取組みとして，国際交流センターを中心に，資料Ｃ－１－②－Ｄのような学生派遣・受入のためのプログラム（国際キャリアアッププログラム）を推進している。

資料Ｃ－１－②－Ｄ：国際キャリアアッププログラム

■ 国際キャリアアッププログラム

国際的に活躍できるグローバル人財を育成するため、以下の６つのプログラムを推進しています。

（1）語学研修：海外の協定校で、英語・ドイツ語・中国語の語学研修を実施しています。

（2）英語等による国際教育コース：①英語等によるコミュニケーション能力向上、②留学生と日本人学生が異文化理解を深めること、③国際インターンシッププログラムや3大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムへの参加、④海外留学などの活動を支援するために、共通教育の統合教育科目や国際交流センター独自の教育コースを開講しています。

（3）短期国際教育：海外の協定校との連携（韓国・タイ・ベトナム・インドネシア）による海外の大学での授業参加や異文化体験を通じて、国際理解を深めています。

（4）国際インターンシッププログラム：韓国・タイ・ベトナム・マレーシアなどの協定校と相互に学生の派遣・受入れを行い、就業体験、教育及び研究などの機会を提供しています。

（5）３大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウム：1994年から三重大学、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）の3大学、2011年からボゴール農科大学（インドネシア）を核として複数の大学が参加し、人口、食料、エネルギー、環境などをテーマとする学生の英語による研究発表と交流の場を提供しています。毎年各大学が交代で開催しており、第20回目となる2013年は、三重大学で記念大会を開催する予定です。

（6）ダブルディグリープログラム（複数学位取得制度）：本学と海外の大学とが学位授与に関する協定を結び、両大学の学生が双方の大学に在籍し、必要な単位を修得することにより両大学の学位を取得するダブルディグリープログラムを、学部レベルで天津師範大学（中国）と、大学院レベルでスリウィジャヤ大学及びパジャジャラン大学（インドネシア）との間で実施しています。

（出典：2013 年度国立大学法人三重大学概要）

また，学部・研究科においても大学の国際化の目的に基づき，それぞれの特色を活かした学生派遣・受入のための独自のプログラムを実施している。

さらに，国立大学改革強化推進事業として採択された三重大学，名古屋大学，愛知教育大学の 3 大学連携による「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」事業を活用し，留学生受入れ体制の整備を進めている（別添資料Ｃ－１－②－６）。

そのほか，JICA 研修，JICE 21 世紀東アジア青少年大交流計画等にも積極的に協力し，海外学生と本学学生との交流の場を創出している（別添資料Ｃ－１－②－７）。今後，本学では年間 400 人程度（短期滞在者も含む）まで海外からの留学生を増加させる計画であり，留学生宿舎の増築を計画し，2014 年度年度着工を目指している。

本学の教育活動については，ウェブサイトで，英語による教育研究内容の紹介，英文刊行物の公表を行っている（資料Ｃ－１－②－Ｅ）。さらに外国人留学生に対しては，国際交流センターと学生総合支援センターとの連携による本学独自の経済支援をはじめ，様々な支援活動を実施している（資料Ｃ－１－②－Ｆ）。

資料Ｃ－１－②－Ｆ：留学生受入れの環境・支援体制

事　項	取　組　内　容
ビザ代理申請制度	留学生の在留資格認定証明書を留学生支援室が代理申請
留学生ガイダンスの実施	新渡日の留学生を対象として年 2 回（4 月と 10 月），資格外活動，在籍確認，健康保険の加入等の日本での生活に重点をおき，国際交流チーム職員による通訳を交えて実施
留学生ガイドブックの作成	留学生が学内・学外で知っておくべき学習・生活面のガイドブックを日本語，英語，中国語で作成し留学生に配布
留学生データベースの構築	留学生データベースを利用して，在籍確認，資格外活動の管理，VISA 更新の管理，メールアドレスの管理，現住所と本国連絡先等を一元的に管理

機関保証制度	留学生が民間アパート等を借りる時に，大学が機関保証人となる
留学生会の設立	留学生間及び大学との交流を促進することを目的に 7 グループから構成される留学生会の設置。留学生支援室　と毎月 1 回の情報交換会を開催
留学生メールマガジンの配信	登録されたメールアドレス（携帯電話を含む）に定期的（月 1 回）に，大学から重要な連絡事項を日本語と英語で配信
留学生の生活サポート	新渡日の学生の出迎え，住民登録，健康保険の加入等の各種手続きの支援
日本人チューター制度	日本人学生（チューター）が新渡日の留学生に生活・日本語学習補助等を行う
入学時の健康診断	入学願書の必要書類の中で健康診断書を不要とし，入学後に学内の健康診断を受診することを徹底
国際交流センターe-ラーニングブース	留学生及び日本人学生のための自習スペース。総合研究棟 II に設置
オフィスアワー制度	国際交流センター教員が，毎週時間をきめて留学生の相談を受ける制度
本学独自の奨学金制度	①「国際交流特別奨学生制度」：協定大学からの短期留学生を対象として，年間 20 名に月 2 万円の奨学金を支給 ②「外国人留学生助成金」，「タイ人留学生助成金」：本学の名誉教授からの寄附金を基に優秀な留学生に対し奨学金を支給
国際交流センターウェブサイトの充実	入学案内，教育の参考資料，キャンパスライフ，国際交流関連ニュース，奨学金等の情報を掲載（英語版・日本語版）。 http://www.cie.mie-u.ac.jp/en/cier/prospective/
留学生宿舎の整備	大学の自己資金により 2008 年度に新学生寄宿舎（84 戸）を建設し，これまでに収容定員 149 人の留学生宿舎を整備。 http://www.cie.mie-u.ac.jp/life/housing/housing.html さらに外国人留学生，短期滞在留学生の生活環境の充実を図るため，借入金を含めた自助努力により留学生宿舎（収容定員 87 人）の新設を進めており，日本人学生もチューターとして入居させることで外国人留学生との共同生活の中で異文化を学ぶ機会を設ける。
日本人学生による日本語サポート	日本人のボランティア学生が授業の空きコマを利用して留学生の日本語学習のため日常会話の相手や，漢字の読み方や意味の指導を行う。
留学生へのホストファミリーの紹介	「セカンド・ホーム」：津市を中心とする国際交流市民団体「ホームステイ・イン津」の協力により 1999 年より続いているホストファミリー・プログラム。 津市内の一般家庭に週末に宿泊することにより地域住民との交流を図る。
短期間ホームステイ事業	「ゴールデンウイークホームステイ」：ゴールデンウイークに留学生が津市内の一般家庭にホームステイをするプログラム。津市と津市国際交流協会との共催により実施している。
私費外国人留学生優遇制度	本学独自の取組みとして，海外の協定校から本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対して入学金及び授業料の全学免除を実施
日本語教育コースの設置	三重大学在学のすべての留学生がそのニーズと日本語能力に応じて受講することができる

	http://www.cie.mie-u.ac.jp/class/info/index.html
留学生への就職支援	○キャリアサポートセンターウェブサイト（留学生への求人情報） http://www.mie-u.ac.jp/employment/students/post-2.html ○国際交流センター「雇用・就職のための企業と留学生の交流会」 http://www.cie.mie-u.ac.jp/new/post-113.html ○人文学部留学生セミナー http://www.human.mie-u.ac.jp/event/post-15.html

これらの留学生支援活動以外にも，私費外国人特別入試の実施，ダブルディグリー協定校を会場とした海外入試の実施を通して本学への留学希望者への便宜をはかっている。また，学生総合支援センターのある総合研究棟Ⅱには，保健管理センター及び留学生支援室が設置されており，これらの複数の学内共同センターとの有機的連携により，修学・就職・生活・健康の全てを網羅したワンストップサービスを提供できる学生支援体制を実現している（資料Ｃ－１－②－Ｇ）。

③「地域国際化支援」に係る取組

中期目標の三番目に掲げた「地域国際化支援」では，三重県知事を含む県のブラジル訪問団に同行し，学術面での三重県とサンパウロ州との交流拡大に貢献した（資料Ｃ－１－②－Ｈ）。また，先述の三重大学国際交流週間の中でも留学生と地域の方との交流の場を設けている。

資料Ｃ－１－②－Ｂ：英語による国際教育科目
http://www.cie.mie-u.ac.jp/class/international-education/index.html
資料Ｃ－１－②－Ｃ：海外拠点「三重大学教育研究センター」
http://www.cie.mie-u.ac.jp/base/post-47.html
http://www.cie.mie-u.ac.jp/base/post-49.html　（インドネシア・スリウィジャヤ大学）
資料Ｃ－１－②－Ｅ：三重大学英語版ウェブサイト
http://www.mie-u.ac.jp/en/
資料Ｃ－１－②－Ｇ：学生総合支援センター組織図
http://www.mie-u.ac.jp/life/about/structure.html
資料Ｃ－１－②－Ｈ：学長ブラジル訪問（三重大学 Flash News No.123）
http://www.mie-u.ac.jp/report/flash/123.pdf

別添資料Ｃ－１－②－１：三重大学国際交流センター規程
別添資料Ｃ－１－②－２：三重大学事務組織規程〈留学生支援室抜粋〉
別添資料Ｃ－１－②－３：国際戦略本部規程
別添資料Ｃ－１－②－４：「第７回三重大学国際交流週間 2013」ポスター
別添資料Ｃ－１－②－５：３大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムポスター
別添資料Ｃ－１－②－６：アジア連携高等教育機構概念図
別添資料Ｃ－１－②－７：21 世紀東アジア青少年大交流計画

【分析結果とその根拠理由】

教育の国際化に向けて，全学的教育活動および学部・研究科教育活動が多角的に実践されており，中期目標に掲げる「学内国際化」「外国人受入れと学生，教職員の派遣」「地域国際化支援」が中期計画，年度計画に基づき，順調に推進されている。これらの活動は，継続性・発展性のある活動に成熟しつつあり，その目標・計画に沿って適切に実施されていると判断する。

観点Ｃ－１－③：　活動の実績及び学生の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

本学では，学生の満足度調査を実施しており，関連項目「５．留学支援や国際交流」では，高い評価を得ている（別添資料Ｃ－１－③－１）。

①「学内国際化」に係る活動の実績

外国人教員の増加に向けた本学独自の取組として2009年度から外国人特任教員（教育担当）に係る雇用経費の50％を大学事務局予算で支援しているが，それに加えて，2012年度からは２人目以上の外国人教員を雇用する場合は80％を大学事務局予算にて支援することとしている。この施策により外国人教員採用数は一定の水準を維持する状況になっている（資料Ｃ－１－③－Ａ）。

事務組織においても，留学生支援室に留学経験や海外在住経験のある外国語ができる常勤職員を配置しており，留学生からの相談に対して迅速に対応できるようになっている。

教育の国際化を担う教員養成を目指す全学規模のFDや研修会を2010年度以降，継続実施しており，毎回，多くの教員が参加している（資料Ｃ－１－③－Ｂ）。

国際交流センターで実施した英語による国際教育科目の2013年度の開講科目は21科目で，これら科目には，前期に日本人学生96名，外国人留学生59名が，後期に日本人学生87名，外国人留学生64名が受講した（別添資料Ｃ－１－③－２）。

ＩＣＴを利用した遠隔授業の実施については，教育学部「遠隔授業教室」におけるミシガン大学，シドニー大学との遠隔授業や，医学系研究科の大学院医学セミナーの中にハーバード大学等の講師による遠隔対話形式のセミナーを設けるなど，海外教育機関との英語による授業を実施している（別添資料Ｃ－１－③－３）。

工学研究科で2012年度に新規開講した国際教育科目では，　338名（2013年度）が実践的な英語科目を履修している（資料Ｃ－１－③－Ｃ）。「工学研究科国際シンポジウム（２日間コース）」には，大学院生を中心に約400名が参加し，博士前期課程学生の半数が英語による研究成果発表を行った（資料Ｃ－１－③－Ｄ）。また，地域イノベーション学研究科では，研究科が発足した2009年度より「地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」（２日間）を年１回実施しており，これまでに博士前年期課程57名と博士後期課程32名の学生が英語による研究成果発表を行った（資料Ｃ－１－③－Ｅ）。

「三重大学国際交流週間2013」では12月11日の日本語スキットコンテストを皮切りに，「留学生のための研修旅行」など，計14のイベントを実施し，期間中に延べ約1400名の留学生，本学学生，教員，地域関係者が参加した（別添資料Ｃ－１－③－４）。

①　「外国人受入れと学生，教職員の派遣」に係る活動の実績

外国人受入れと学生派遣に関する取組みでは，海外拠点を活用したダブルディグリープログラムを推進，国立大学改革強化推進事業，学術交流大学の拡充や３大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムの実施などを推進

し，活動実績を上げている。また，学部・研究科での取組みも含め，主な外国人学生の受入れや学生派遣に関する活動の成果を（資料Ｃ－１－③－Ｆ，資料Ｃ－１－③－Ｇ）に示す。

資料Ｃ－１－③－Ｆ：国際交流センターを中心とする外国人受入れ・学生派遣に関する取組実績

<table>
<tr><th></th><th>事　項</th><th>活　動　の　成　果</th></tr>
<tr><td rowspan="4">国際キャリアアッププログラム</td><td>語学研修</td><td>研修の実施概要と活動内容を国際交流センター年報 2012 に掲載し，その内容を web 上で広く公開している
【国際交流センター年報 2012】海外語学研修実施概要 p31
http://www.cie.mie-u.ac.jp/Annual%20Report%202012.pdf
<table>
<tr><th></th><th>2011 年度</th><th>2012 年度</th><th>2013 年度</th></tr>
<tr><td>参加人数</td><td>29 名</td><td>28 名</td><td>28 名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>短期国際教育（フィールドスタディ）</td><td>研修の実施概要と活動内容を国際交流センター年報 2012 に掲載し，その内容を web 上で広く公開している
【国際交流センター年報 2012】短期国際教育（フィールドスタディ）参加報告 p42
http://www.cie.mie-u.ac.jp/Annual%20Report%202012.pdf
<table>
<tr><th></th><th>2011 年度</th><th>2012 年度</th><th>2013 年度</th></tr>
<tr><td>参加人数</td><td>20 名</td><td>17 名</td><td>19 名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>国際インターンシッププログラム</td><td>国際インターンシッププログラム参加者はインターンシップ参加後，報告会において実験実習等の成果発表を行うとともに，参加報告書や参加者の感想は web 上でも広く公開している
【報告会】http://www.cie.mie-u.ac.jp/iip/post-160.html
【報告書】http://www.cie.mie-u.ac.jp/iip/post-158.html
【参加者の感想】http://www.cie.mie-u.ac.jp/iip/post-189.html
<table>
<tr><th></th><th></th><th>2011 年度</th><th>2012 年度</th><th>2013 年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">参加人数</td><td>派遣</td><td>6 名</td><td>12 名</td><td>9 名</td></tr>
<tr><td>受入</td><td>6 名</td><td>4 名</td><td>10 名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>３大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウム</td><td>３大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムは，本学が中心となりタイ・チェンマイ大学，中国・江蘇大学と協力して，1994 年から毎年開催してきた。
参加者は，これら３大学に留まらず，これらの大学と交流のある大学から 100 名以上の学生と教員が参加する国際的な学術活動に成長している。2011 年には，インドネシア・ボゴール農科大学がホスト大学に加わり，東アジア・東南アジア諸国の大学関係者が共に学び，交流する機会になっている。
2013 年には 20 回記念大会を本学で実施し，タイ，中国，インドネシア，マレーシア，ミャンマー，ロシア，韓国などから合計 117 名の参加があった。
【参加報告書】
http://www.cie.mie-u.ac.jp/publications/post-107.html</td></tr>
<tr><td>ダブルディグリープログラム（複数学位取得制度）</td><td>本学のダブルディグリープログラムは，学部レベルで教育学部と天津師範大学（中国）と，大学院レベルでは生物資源学研究科とスリウィジャヤ大学との間で実施しており，2013 年度からはパジャジャラン大学（インドネシア）が加わるなど事業の充実が図られている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国</td><td>①国際交流センターの国際化推進部門に JICA からの出向者を特任教員として雇用し，本学の国際化に係る実施体制の強化を図った。</td></tr>
</table>

際化の加速度的推進」事業による留学生受入態勢の整備	②留学等の学生向け情報発信の強化，学生の外国語能力向上のため学習等の機会提供，留学生と日本人学生の交流促進を目的として，電子掲示板や，学生用ｅラーニングブース等を整備し，学内の国際交流環境の充実を図った。
海外の大学との学術交流協定の締結	海外の大学との学術交流協定の締結については，2011 年５月現在で 31 か国・71 大学であったものが，2014 年５月現在で 35 か国・92 大学に拡大し，本学の国際交流活動の実績がこれらの件数にも表れている（別添資料Ｃ－１－③－５）。

資料Ｃ－１－③－Ｇ：学部・研究科における外国人受入れ・学生派遣に関する取組み

<table>
<tr><th>事　項</th><th>活　動　の　成　果</th></tr>
<tr><td>人文学部</td><td>①韓国世宗大学と国際インターンシップを実施しており，これまでに派遣・受入ともに着実な実績を上げている。本事業に派遣した学生に対して単位認定も行っている。
<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>2011 年度</th><th>2012 年度</th><th>2013 年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">参加人数</td><td>派遣</td><td>0 名</td><td>5 名</td><td>4 名</td></tr>
<tr><td>受入</td><td>3 名</td><td>3 名</td><td>2 名</td></tr>
</table>
②2012 年度よりイギリスのオックスフォード大学ハートフォードカレッジにおいて，学部主催による２週間の短期語学研修を開始。2012 年度は９名，2013 年度は８名の学生が参加。単位化を含めた制度設計についても検討を進めている。</td></tr>
<tr><td>教育学部</td><td>海外の小中学校の教育現場と日本の教育現場の比較体験や，学校教育と教員をめぐる諸課題に関する国際的な視野を広げることを目的に，オークランド大学教育学部における教育研修を実施している。2013 年８月には学部間協定も締結した。
<table>
<tr><th></th><th>2011 年度</th><th>2012 年度</th><th>2013 年度</th></tr>
<tr><td>参加人数</td><td>9 名</td><td>10 名</td><td>10 名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>医学部</td><td>海外臨床実習は，医学部医学科の第６学年学生が欧米の病院だけでなく，アジア・アフリカの開発途上国・新興国にある病院での臨床実習に参加している。
早期海外体験実習は，海外保健医療への早期暴露を目的に医学科第１-４学年学生および看護学科学生が参加する教育活動として定着している。本活動に対する学生からの評価は高く，実践的語学力・コミュニケーション力，異文化理解，医療格差・医療経済の認知などを学ぶことができると評価されている。また，６年間の医学教育カリキュラムを通した専門語学教育，体系的国際保健医療教育，体験型海外実習が実践されている。これらの医学教育の国際化事業は，二つの GP の採択を受けて実施したが，事業終了後の文部科学省による現地調査においても高い評価を受けた。これら途上国への学生派遣事業は，2013 年度にはザンビア大学，本学及び藤田保健衛生大学との３大学での取り組みに発展するなど活動の成果を上げている。
【大学教育推進プログラム現地調査報告書】
http://www.jsps.go.jp/j-pue/data/jyokyo_download/genchi_chousa/01_mie.pdf</td></tr>
<tr><td>医学系研究科</td><td>大学院国際推薦制度では開発途上国・新興国にある協定大学からの留学生を毎年２名，本学医学系研究科生命科学専攻（博士後期課程）に受け入れている。本制度に採用された留学生は入学金，授業料，住居費，渡航費等を研究科経費により支援される。
http://www.medic.mie-u.ac.jp/grad/admission/kokusai.php
2014 年 3 月には本国際推薦制度の取組みを基盤とした，文部科学省国費外国人留学生優先配置を行う特別プログラム「アジア・アフリカにおける保健医療人材育成ネットワーク</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>形成プログラム」が採択された。</td></tr>
<tr><td>工学研究科</td><td>国際教育科目の中で「国際インターンシップ」「短期留学」が授業科目として設置されており，工学研究科独自の取組みとして，毎年，学生の海外派遣を行っている。
<table>
<tr><td></td><td>2011 年度</td><td>2012 年度</td><td>2013 年度</td></tr>
<tr><td>参加人数</td><td>13 名</td><td>29 名</td><td>23 名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>生物資源学研究科</td><td>国際交流センターが実施する国際インターンシッププログラムとの共同体制により，同プログラム参加学生に対し，生物資源学研究科博士前期課程の選択必修科目「国際インターンシッププログラム」として単位認定を行う。</td></tr>
<tr><td>地域イノベーション学研究科</td><td>英語版の学生募集要項を作成し，これにより 2012 年度にインドネシアから 2 名の博士後期課程学生を受け入れた。</td></tr>
</table>

GPA に関しては，2010 年４月に「三重大学における GPA 制度の取扱いに関する要項」により GPA 算出の制度を定め，単位の実質化を図ると共にウェブシラバス等で広く周知している（資料Ｃ－１－③－H）。

また，本学では 10 月入学を実施しており，10 月入学者のうち約半数が外国人留学生である（資料Ｃ－１－③－Ｉ）。

外国人学生の支援については，前述の（観点Ｃ－１－②）のとおり，国際交流センターと学生総合支援センターの連携により様々な活動を行っており，これら取組みの成果は，学生の満足度調査「５．留学支援や国際交流」に表れている。（前掲資料Ｃ－１－③―１）

外国人学生に向けた就職支援の成果として，本学留学生の卒業後の日本国内就職割合は年々増加している（資料Ｃ－１－③－Ｊ）。

外国人留学生のための入学試験の取組みとして，2013 年度は 12 名の私費外国人留学生が特別入試により入学している（資料Ｃ－１－③－K）。また，2012 年 12 月 18 日には，スリウィジャヤ大学大学院を会場として，大学院博士前期課程入学試験のダブルディグリープログラム外国人特別選抜を行い，スリウィジャヤ大学とのプログラムに３名，パジャジャラン大学とのプログラムに４名の学生が合格し，2013 年４月より三重大学での留学生活を開始した（資料Ｃ－１－③－Ｌ）。

③「地域国際化支援」に係る活動の実績

「地域国際化支援」では，サンパウロ大学との国際協力に関する基本合意書の調印，ペルー国立ラ・モリーナ大学との大学間学術交流の締結を行った。また，国際交流週間事業の一つである「Hand in Hand! みえの地球市民 2013」では国際貢献・交流活動の発展を目的に近隣大学と協力した多文化社会づくりの交流が行われ，近隣住民も含め約 300 人が参加した（資料Ｃ－１－③－M）。

資料Ｃ－１－③－Ａ：外国人教員数

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
常勤教員	11	11	12
特任教員（教育担当）	5	6	7
計	16	17	19

（出典：人事チーム提供資料を基に作成）

資料Ｃ－１－③－Ｂ：三重大学全学 FD「英語で授業する」開催状況

開催日	テーマ	参加人数
2013 年 7 月 19 日	CLIL（Content and Language Integrated Learning）を取り上げ，その方法，意義や有効性について	約２０名

2012 年 7 月 13 日	IELTS（英語力の検定試験）の重要性およびケンブリッジ大学で新たに提唱された CLIL（内容言語統合学習）の手法について	約２０名
2011 年 11 月 18 日	第１部：なぜ「英語で授業する」？ 第２部：「英語で学ぶ秘訣」とアクティブ・ラーニング	２３名
2011 年 11 月 26 日	『大学教員のための教室英語表現 300』	４４名

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

資料Ｃ－１－③－Ｃ：工学研究科国際教育科目

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
履修学生数	117 名 (※試行実施)	370 名	338 名

（出典：工学研究科提供資料を基に作成）

資料Ｃ－１－③－Ｄ：第 2 回工学研究科国際シンポジウム

http://www.eng.mie-u.ac.jp/research/symposium/【概要】

http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2012/11/2-4.html【開催報告】

資料Ｃ－１－③－Ｅ：地域イノベーション学に関する国際ワークショップの発表件数（2009-2013 年度）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	合計
海外からの招待講演	2	1	1	2	2	8
博士前期課程学生	10	11	9	13	14	57
博士後期課程学生	5	10	7	7	3	32

（出典：地域イノベーション学研究科提供資料を基に作成）

資料Ｃ－１－③－Ｈ：成績評価及び GPA について

http://www.mie-u.ac.jp/students/classwork/Seiseki-GPA.html

資料Ｃ－１－③－Ｉ：10 月入学者数

	2011 年 10 月	2012 年 10 月	2013 年 10 月
10 月入学者数	21	32（※）	21
うち留学生数	8	24（※）	10

※2012 年 10 月入学者数には教育学部ダブルディグリープログラム入学者 12 名を含む

（出典：留学生生支援室提供資料を基に作成）

資料Ｃ－１－③－Ｊ：留学生（正規生）進路状況

	区分	卒業・修了者	卒業・修了者の内訳				
			就職者			進学者	その他
			就職：日本	就職：海外	計		
2010 年度	学部	15	3	1	4	3	8
	大学院	38	2	1	3	3	32
2011 年度	学部	27	1	6	7	14	6
	大学院	43	12	8	20	2	21
2012 年度	学部	6	3	0	3	1	2
	大学院	44	16	7	23	1	20

（出典：就職支援チーム作成資料）

資料Ｃ－１－③－Ｋ：私費外国人留学生を対象とした特別入試実施状況

	志願者数	受検者数	合格者数	入学者数
2011 年度	101	96	26	13
2012 年度	105	98	20	10
2013 年度	87	82	18	12

（出典：入試チーム作成資料）

資料Ｃ－１－③－Ｌ：ダブルディグリープログラムの海外入試
http://www.cie.mie-u.ac.jp/new/20100108.html
資料Ｃ－１－③－Ｍ：「Hand in Hand! みえの地球市民2013」実施報告
http://www.cie.mie-u.ac.jp/event/hand-in-hand-2013.html

別添資料Ｃ－１－③－１：平成24年度三重大学教育満足度調査報告書
別添資料Ｃ－１－③－２：英語による国際教育科目・履修者数一覧（H23～H25）
別添資料Ｃ－１－③－３：遠隔授業開催実績
別添資料Ｃ－１－③－４：第7回三重大学国際交流週間2013実施概要（参加人数含む）
別添資料Ｃ－１－③－５：国際交流協定締結機関一覧

【分析結果とその根拠理由】

海外との学術交流協定の拡充，３大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムを始めとする国際シンポジウムの開催，外国人留学生受入れ拡大への取組み，留学生支援体制の整備，語学研修・海外フィールドスタディー・国際インターンシップ・海外臨床実習などの海外体験的学習機会の創出などが実績として上げられる。これらの活動は，外部評価で高く評価されるとともに，他大学を含めた事業への発展など良好な成果を上げている。これら活動の成果は文部科学省の国費留学生優先配置プログラムの採択や，在学生を対象にした満足度調査結果にも表れている。

以上のことから，本学の国際化に関する取組は活動の実績及び学生の満足度等から判断して，活動の成果が上がっていると判断する。

観点Ｃ－１－④：　改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

本学では学長のリーダーシップの下に国際戦略本部を設置し，国際戦略本部会議において，国際交流の基本ポリシー，国際交流協定，国際交流基金の管理運用等に関する協議・報告を行っている。また，国際化を推進するための実行部門としての国際交流センターを運営するため，国際交流センター運営会議が設置されている。外国人留学生の受入れや修学及び生活の援助，学生の海外派遣に関しては留学生委員会において，協議・報告を行っている。これら３つの会議を中心として，本学の国際化に関する検証と改善活動に向けた検討を行っている（前掲資料Ｃ－１－②－Ａ）。

国際戦略本部会議では，国際交流協定校との交流について，これまでの実績並びに今後の活動計画を示しながら検証を行っており，今後の国際交流の実質化に向けた改善に取り組んでいる。国際交流センター運営会議では毎年度当初に年間の活動計画を示すとともに，各事業が終了した際に，それぞれの担当委員から事業の実施報告が行われており，今後の改善活動に役立てている（別添資料Ｃ－１－④－１，別添資料Ｃ－１－④－２）。

2013 年度の留学生委員会では，留学生の支援体制の強化に関して，これまでの留学生支援体制を検証しつつ，今後，更なる支援体制を強化する方針が打ち出され，その方針は本学の教育研究評議会を通じて，全学にフィードバックされた。（別添資料Ｃ－１－④－３）

また，これまでの国際化に関する活動を踏まえ，「国際医療支援センター」「バイオエンジニアリング国際教育研究センター」「国際環境教育研究センター」を学内組織として新たに設置するなど，多分野融合領域での国際的な教育研究活動を行うためのセンターを充実させている。

別添資料Ｃ－１－④－１：学術交流協定校との交流実績及び計画等について
別添資料Ｃ－１－④－２：国際交流センター運営会議議事概要
別添資料Ｃ－１－④－３：25-7　教育研究評議会資料

【分析結果とその根拠理由】

国際戦略本部会議，国際交流センター運営会議，留学生委員会ともにこれまでの活動に関する協議や報告を通じて事業の検証を行っており，今後の改善活動に役立てている。特に2013年度に作成した留学生の支援体制の強化に関する方針については，毎月１回の在籍確認の他に各留学生の指導に関わる教員の定期的な面談，緊急的経済支援を要する留学生の把握，生活ルールの指導徹底など，より一層の改善が図られている。また，これまでの活動を踏まえ，国際的な教育研究活動を行うための学内組織を充実させている。

以上のことから，教育の国際化に関して改善のための取組みが行われていると判断する。

（２）目的の達成状況の判断

本学の「国際化に関する目標」は中期目標において明確に定められ，この目標を達成するための措置として６年間の中期計画を立て，事業年度毎の具体的活動内容を年度計画として策定している。これらの中の「学内国際化」「外国人学生受入れと学生，教職員の派遣」「地域国際化支援」のそれぞれの分野において，その目標・計画に沿って適切に実施されており，学生の満足度調査でも高い評価を得ている。

以上のことから，目的の達成状況が良好であると判断する。

（３）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・3大学国際ジョイントセミナー＆シンポジウムは，本学が中国とタイの協定校との連携により1994年以来継続して開催している国際的学術活動であり，本学学生への高い教育効果を上げている。2011年には，インドネシア・ボゴール農科大学がホスト大学に加わり，本シンポジウムへの参加大学も，インドネシア，マレーシアなどのASEAN諸国に拡大しており，東アジア・東南アジアを中心に学生が交流できる貴重な機会になっている。

・アジアの大学との連携による国際インターンシップ（生物資源学研究科・工学研究科），ダブルディグリープログラム（教育学部・生物資源学研究科），アジア・アフリカの大学との連携による海外臨床実習（医学部医学科）など学部の特色を活かした国際化教育が実践されている。

・医学部における早期海外体験実習及び海外臨床実習は，優れた取組みとして二つのGPの選定を受けて推進したが，事業終了後の文部科学省による現地調査でも高い評価を受けた。事業終了後も，大学院国際推薦制度の導入による交流大学との相互互恵的な関係の構築，アジア・アフリカを重点地域とする協定大学の拡充を図ることで海外における教育研究基盤を形成し，これら教育活動を持続発展性のある活動にしていることが評価されている。また，2013年度にはザンビア大学，本学及び藤田保健衛生大学との３大学での取り組みに発展するなど他大学への波及効果も生まれている。

・2014年３月に医学系研究科の大学院国際推薦制度の取組みを基盤とした，文部科学省国費外国人留学生優先配置を行う特別プログラム「アジア・アフリカにおける保健医療人材育成ネットワーク形成プログラム」が採択された。

・工学研究科「工学研究科国際シンポジウム（2012年度）」には，大学院生を中心に約400 名が参加し，博士前

期課程学生の半数が英語による研究成果発表を行った

・外国人留学生受入れについても，数値目標を掲げ，その達成に向けての体制整備・教員能力向上・滞在施設の整備などにも取り組んでいる。

【改善を要する点】

該当なし